(様式第10)

30 京 医 病 第 133 号
平 成 30 年 10 月 3 日

厚生労働大臣　根 本　匠　様

京都府公立大学法人
理事長　金田　章裕

京都府立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成29年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒 602-8566　　京都市上京区河原町通広小路上る梶井町４６５
氏　　名	京都府公立大学法人

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

京都府立医科大学附属病院

3　所在の場所

〒 602-8566　　京都市上京区河原町通広小路上る梶井町４６５
電話(075　) 251-5111

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に〇印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	☑ 有 ・ □ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ① 呼吸器内科　② 消化器内科　③ 循環器内科　④ 腎臓内科 5 神経内科　⑥ 血液内科　⑦ 内分泌内科　⑧ 代謝内科 9 感染症内科　⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科　⑪ リウマチ科	
診療実績 「神経内科」の診療内容は脳神経内科で提供している。 「感染症内科」の診療内容は内科で提供している。	

(注)　1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に〇印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	☑ 有 ・ □ 無
外科と組み合わせた診療科名 ① 呼吸器外科　② 消化器外科　③ 乳腺外科　4 心臓外科 5 血管外科　⑥ 心臓血管外科　⑦ 内分泌外科　⑧ 小児外科	
診療実績	

(注)　1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科	
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科	⑪ 耳鼻咽喉科
⑫ 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科	⑯ 救急科	

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	☑ 有 ・ □ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 小児歯科　2 矯正歯科　3 口腔外科	
歯科の診療体制	

(注)　1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科	2 小児心臓血管外科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科
6 脳神経内科	7 内分泌・糖尿病・代謝内科	8 内分泌・乳腺外科	9 精神科・心療内科	10 救急医療科
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
118 床	床	54 床	床	893 床	1,065 床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常　勤	非常勤	合　計	職　種	員　数	職　種		員　数
医　師	255 人	286 人	535.6 人	看護補助者	34 人	診療エックス線技師		人
歯科医師	5 人	19 人	24.0 人	理学療法士	16 人	臨床	臨床検査技師	67 人
薬剤師	53 人	8 人	59.1 人	作業療法士	7 人	検査	衛生検査技師	人
保健師	人	人	0 人	視能訓練士	11 人		その他	人
助産師	24 人	人	24 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師		人
看護師	739 人	55 人	777.6 人	臨床工学士	18 人	医療社会事業従事者		2 人
准看護師	人	人	0 人	栄　養　士	3 人	その他の技術員		16 人
歯科衛生士	7 人	人	7 人	歯科技工士	3 人	事　務　職　員		209 人
管理栄養士	10 人	6 人	14.9 人	診療放射線技師	51 人	その他の職員		6 人

(注)　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。

2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	44 人	眼科専門医	20 人
外科専門医	68 人	耳鼻咽喉科専門医	13 人
精神科専門医	9 人	放射線科専門医	24 人
小児科専門医	31 人	脳神経外科専門医	9 人
皮膚科専門医	9 人	整形外科専門医	28 人
泌尿器科専門医	17 人	麻酔科専門医	26 人
産婦人科専門医	24 人	救急科専門医	7 人
		合　計	329 人

(注)　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。

2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　　北脇　城　　）　**任命年月日**　平成29年4月1日

医療に関する安全管理対策委員会委員・・・２年

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	613.5 人	3.4 人	616.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,276.1 人	109.7 人	1,385.8 人
1日当たり平均調剤数			1,379.9 剤
必要医師数			141.0 人
必要歯科医師数			7.0 人
必要薬剤師数			21.0 人
必要（准）看護師数			356.0 人

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	328.10 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	15 床	心電計	☑ 有 ・ □ 無
			人工呼吸装置	☑ 有 ・ □ 無	心細動除去装置	☑ 有 ・ □ 無
			その他の救急蘇生装置	☑ 有 ・ □ 無	ペースメーカー	☑ 有 ・ □ 無
無菌病室等	［固定式の場合］床面積 181.70 ㎡		病床数 8 床			
	㎡		病床数 床			
	［移動式の場合］台数 9 台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］床面積 37.00 ㎡					
	［共用室の場合］共用する室名					
化学検査室	211.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置、検体前処理装置、全自動グリコヘモグロビン測定装置、血糖検査機器、多項目自動血球分析装置、凝固検査機器、全自動細胞解析装置		
細菌検査室	99.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）	安全キャビネット、全自動血液培養検査装置、細菌同定検査装置、薬剤感受性検査装置、抗酸菌遺伝子検査装置、抗酸菌液体培養検査装置、		
病理検査室	284.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）	脱脂脱水包埋装置、自動染色機、クライオスタット、硬組織用切断機、自動封入機、顕微鏡システム、画像データベース、バーチャルスライドシステム		
病理解剖室	75.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）	L字形ステンレス解剖台、写真撮影装置、ディープフリーザー、消毒装置、マクロ標本棚、体液吸引装置、脱脂脱水包埋装置		
研究室	3,792.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）	核磁気共鳴装置、スペクトロメーター、画像解析装置、遠心器、ミクロトーム、光度計、血液分析装置		
講義室	616.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 4 室	収容定員		420 人
図書室	1,080.00 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 27 室	蔵書数	14000	冊程度

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		89.00 %	逆紹介率	71.40 %
算出根拠	A：紹介患者の数	15,613 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,296 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,458 人		
	D：初診の患者の数	21,425 人		

（注）　1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
松村　由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	□ 有 ・ ☑ 無	1
平野　哲郎	立命館大学法科大学院法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	□ 有 ・ ☑ 無	1
佐藤　恵子	京都大学医学部附属病院		生命倫理学の観点から医療問題に精通している。	□ 有 ・ ☑ 無	1
秋篠　憲一	同志社大学文学部英文学科		本院の患者として医療を受ける者の代表	□ 有 ・ ☑ 無	2
				□ 有 ・ □ 無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☑ 有 ・ □ 無
委員の選定理由の公表の有無	☑ 有 ・ □ 無
公表の方法 京都府公立大学法人のホームページに掲載	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	1人
角膜ジストロフィーの遺伝子解析	5人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	15人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する（PCR法）	3人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	3人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	1人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	0人
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	0人
前眼部三次元画像解析	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術	1人
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療	4人
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	70
2	筋萎縮性側索硬化症	25	57	特発性拡張型心筋症	46
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	39
6	パーキンソン病	111	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	55
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	7	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	68	66	IgA 腎症	81
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	30
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	62	68	黄色靱帯骨化症	16
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	70
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	72
17	多系統萎縮症	10	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	46	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	19	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	50	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	39
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	12	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	7
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	13	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	101
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	7
31	ベスレムミオパチー	1	86	肺動脈性肺高血圧症	19
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	18
34	神経線維腫症	27	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	26	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	13	93	原発性胆汁性肝硬変	49
39	中毒性表皮壊死症	8	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	19	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	83
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	276
43	顕微鏡的多発血管炎	35	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	25	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	22	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	240	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	92	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	96	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	43	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	18	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	13	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	6
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	9	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	38	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	13

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族Ｌ－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／ＬＭＸ１Ｂ関連腎症	1	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

H30.10.1現在

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算2
・（一般）特定機能病院入院基本料　7対1	・精神疾患診療体制加算
・（結核）特定機能病院入院基本料　7対1	・精神科急性期医師配置加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・医師事務作業補助体制加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・看護補助加算2	・緩和ケア病棟入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・無菌治療室管理加算1	・入院時食事療養/生活療養（Ｉ）
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1（抗菌薬適正使用支援加算含む）	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算2	
・病棟薬剤業務実施加算1	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
・糖尿病合併症管理料	・検体検査管理加算（Ⅳ）
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料イ	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料ロ	・胎児心エコー法
・外来緩和ケア管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・脳波検査判断料1
・院内トリアージ実施料	・神経学的検査
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・ロービジョン検査判断料
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・コンタクトレンズ検査料1
・がん地域連携計画策定料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・冠動脈CT撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝学的検査	・外来化学療法加算1
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・無菌製剤処理料
・精密触覚機能検査	・心大血管疾患リハビリテーション科（Ⅰ）
・抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	・脳血管疾患等リハビリテーション科（Ⅰ）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション科（Ⅰ）	・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・呼吸器リハビリテーション科（Ⅰ）	・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
・歯科口腔リハビリテーション科2	・網膜再建術
・リンパ浮腫複合的治療料	・人工中耳植込術
・認知療法・認知行動療法1	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
・医療保護入院等診療料	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
・硬膜外自家血注入	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
・エタノールの局所注入（甲状腺）	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・人工腎臓	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭　・乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内
・手術用顕微鏡加算	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・CAD/CAM冠	・経皮的中隔心筋焼灼術
・手術時歯根面レーザー応用加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・センチネルリンパ節加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。）	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術	・補助人工心臓
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・羊膜移植術	・バルーン閉鎖下逆行性経静脈的塞栓術
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外衝撃波胆石破砕術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下肝切除術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・生体部分肝移植術	・歯根端切除手術の注3
・同種死体肝移植術	・麻酔管理料（Ⅰ）
・体外衝撃波膵石破砕術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除	・外来放射線治療加算
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・高エネルギー放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・1回線量増加加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・強度変調放射線治療（IMRT）
・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・保険医療機関間の連携による病理診断
・同種死体腎移植術	・病理診断管理加算2
・生体腎移植術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・膀胱水圧拡張術	・口腔病理診断管理加算1
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下仙骨膣固定術	・口腔粘膜処置
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）	・経皮的僧帽弁クリップ術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
・輸血管理料Ⅰ	
・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	・
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.)臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間約80回
剖検の状況	剖検症例数　31 例　／　剖検率　5.6 %

（注）「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
嚥下障害に対するconnectome modifying therapy の開発	山脇　正永	総合診療科	3,905,082	補○ 委	文部科学省
Automatic imitationによる摂食嚥下リハビリテーション法の開発	松田　剛	総合診療科	1,350,023	補○ 委	文部科学省
在宅（居宅）における要介護高齢者の誤嚥性肺炎スクリーニングと予防プログラムの開発	山根　由起子	総合診療科	1,713,465	補○ 委	文部科学省
デザイン思考を用いた地域高齢者のリスク・マネジメント：高齢者視点の地域健康デザインの提案	山脇　正永	総合診療科	2,000,000	補○ 委	H29年度４大学連携研究(公募型)支援費
装着型嚥下計測技術に基づく摂食・嚥下支援ネットワーク形成への応用／在宅医療現場での嚥下能力の平均的な経時的変化の把握	山脇　正永	総合診療科	1,040,000	補 委○	国立大学法人筑波大学
高速高精度な選択反応モニタリング定量的質量分析法による大腸癌先制医療の確立	内藤　裕二	消化器内科	16,900,000	補○ 委	文部科学省
粘膜治癒を目指したIBD治療におけるWnt5aペプチドの有用性に関する検討	内山　和彦	消化器内科	580,775	補○ 委	文部科学省
唾液による、実用的なH. pyloriの診断・抗生剤感受性試験の開発	半田　修	消化器内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
DNAメチル化とマイクロRNAの統合的エピゲノム解析による肝細胞癌の病態解明	安居　幸一郎	消化器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
熱ショック蛋白Apg-2の肝脂肪化と肝発癌誘導機序の解析	伊藤　義人	消化器内科	1,318,800	補○ 委	文部科学省
肝細胞プロファイリングに基づくヒト慢性肝不全の病態解明と新規治療法の確立	西川　太一朗	消化器内科	439,260	補○ 委	文部科学省
脂肪肝炎におけるHSP110ファミリーの脂質、糖代謝制御機構の解明	山口　寛二	消化器内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
腸内フローラをターゲットとした新規がん悪液質治療法の開発	石川　剛	消化器内科	1,360,022	補○ 委	文部科学省
十二指腸粘膜バリアを標的とした機能性ディスペプシア治療薬開発に向けた基盤研究	福居　顯文	消化器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
SSA/Pにおける腸内フローラの解析	稲田　裕	消化器内科	780,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Interleukin-36による腸管炎症制御機構の解明	春里　暁人	消化器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
内視鏡下生検組織培養を用いた炎症性腸疾患の治療効果予測法の確立	春里　暁人	消化器内科	500,000	補○ 委	内視鏡医学研究振興財団
炎症性腸疾患に対する局所制御型一酸化炭素遊離薬の開発	高木　智久	消化器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
機能性野菜を用いた腸内フローラ解析による生体恒常性維持効果の実証研究	内藤　裕二	消化器内科	38,000,000	補 委○	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
機能性農林水産物・食品による脳機能活性化に着目した科学的エビデンスの獲得及び次世代機能性農林水産物・食品の開発	鎌田　和浩	消化器内科	2,400,000	補 委○	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター
分子シャペロンAPG-2による非アルコール性脂肪性肝疾患の制御と、その機序に基づく疾患予後評価法、治療法の開発	伊藤　義人	消化器内科	12,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
粘弾性解析に基づく次世代局注液の開発	廣瀬　亮平	消化器内科	1,295,531	補 委○	京都市
新規ミトコンドリア蛋白による心筋アミノ酸代謝制御の解明と心不全治療への応用	的場　聖明	循環器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
うつ病モデルマウスにおける骨髄単球系細胞の動態制御を標的とした動脈硬化予防戦略	山田　浩之	循環器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
高脂肪食摂取母体由来胎児造血系細胞の動態変化を標的とした生活習慣病先制医療の開発	若菜　紀之	循環器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
Caveolin-Cavinシステムの機能解析による肺高血圧症発症機序の解明	中西　直彦	循環器内科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	白石　裕一	循環器内科	130,000	補 委○	国立大学法人東京医科歯科大学
拠点名：真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	的場　聖明	循環器内科	31,058,942	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
経カテーテル大動脈弁置換術の有効性・最適化用対効果を明らかにする研究（経カテーテル大動脈弁置換術前後でＱＯＬの改善を認めない、あるいは心不全を発症する患者の同定と評価）	的場　聖明	循環器内科	1,000,000	補 委○	国立大学法人北海道大学
CRISPR/Cas9システムを用いた成体腎臓での後天的遺伝子改変法の確立	草場　哲郎	腎臓内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
CKD疫学調査	玉垣　圭一	腎臓内科	199,999	補 委○	国立大学法人筑波大学
肺癌治療における免疫チェックポイント阻害剤のバイオマーカー探索	高山　浩一	呼吸器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
悪性腫瘍に伴う悪液質の標準治療の確立	髙山　浩一	呼吸器内科	9,179,180	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アンドロゲン低下によるサルコペニア惹起機構の解明	福井　道明	内分泌・糖尿病・代謝内科	910,000	補○ 委	文部科学省
慢性炎症を呈する非肥満2型糖尿病患者に特異的な自己抗体の探索および病的意義の解明	福田　拓也	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,571,848	補○ 委	文部科学省
新規サルコペニア関連microRNAの生物学的機序の解明	橋本　善隆	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
自然炎症・免疫軸に係る糖尿病性血管障害の分子動態の臨床意義の解明	牛込　恵美（白石恵美）	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
難治性リンパ腫におけるMYC, PVT1再構成・発現の解析と臨床応用	谷脇　雅史	血液内科	910,000	補○ 委	文部科学省
CDKN2A/2B遺伝子欠失を伴う難治性B細胞性リンパ腫に対する診断・治療開発	知念　良顕	血液内科	1,580,000	補○ 委	文部科学省
高齢者多発瀬尾骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法と高齢者評価ツールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究（17ck0106348h0001）	黒田　純也	血液内科	1,000,000	補 委○	国立研究開発法人国立がん研究センター
骨代謝におけるスフィンゴシン1リン酸レセプター3(S1P3)の働き	河野　正孝	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
肺線維症の病因におけるAIF-1の役割の解明と治療法の開発	川人　豊	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
マスト細胞のフェノティピック・コンヴァージョンと慢性脂肪炎症を繋ぐ分子シグナル	藤岡　数記	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
αシヌクレインの脂質関連代謝の解明とそれに注目した新しいパーキンソン病治療戦略	笠井　高士	脳神経内科	824,000	補○ 委	文部科学省
側頭葉てんかんの表情認知機能のメカニズムの解明-てんかん患者の社会生活	田中　章浩	脳神経内科	650,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
成人期発症脳白質疾患の遺伝学的病態解明研究	吉田　誠克	脳神経内科	824,000	補○ 委	文部科学省
transendocytosis障害による脳小血管病発症機序の解明と治療法開発	水野　敏樹	脳神経内科	1,501,598	補○ 委	文部科学省
ヒトNotch3遺伝子導入ショウジョウバエを用いた脳小血管病の研究	水田　依久子	脳神経内科	221,141	補○ 委	文部科学省
モデルショウジョウバエを用いたALSの分子病態の解明と新規標的治療薬の開発	東　裕美子	脳神経内科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
多発性硬化症における疾患修飾薬選択のためのバイオマーカの検討	藤井　ちひろ	脳神経内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
筋疾患の診断・病態評価へのアミロイド・タウイメージングの新規応用	能登　祐一	脳神経内科	647,992	補○ 委	文部科学省
CADASIL患者データベースへの登録、新たな遺伝子探索と診断基準策定	水野　敏樹	脳神経内科	1,000,000	補 委○	国立大学法人 三重大学
モデルショウジョウバエを用いたＡＬＳの分子病態の解明と新規標的治療薬の応用	東　裕美子	脳神経内科	1,300,000	補 委○	京都市
多チャンネル表面筋電図を用いた脳卒中患者の歩行機能障害メカニズムの解明とエビデンスに基づいたニューロリハビリテーション療法の開発	能登　祐一	脳神経内科	1,300,000	補 委○	京都市
パーキンソン病の神経障害性α-シヌクレインオリゴマーの同定と分子標的治療への応用	徳田　隆彦	脳神経内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
超音波を応用した神経変性疾患の低浸襲診断機器開発 ELISA法との比較	徳田　隆彦	脳神経内科	5,928,000	補 委○	国立大学法人 大阪大学
アルツハイマー病の既存髄液バイオマーカーの血液および脳由来エクソソームへの展開とそれらを応用した多項目血液マーカーによる診断システムの実用化	徳田　隆彦	脳神経内科	23,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行性核上性麻痺及び類縁疾患を対象とした多施設共同コホート研究によるバイオマーカー開発と自然歴の解明	徳田　隆彦	脳神経内科	390,000	補 委○	国立大学法人 新潟大学
プリオノイド蛋白質およびそのオリゴマーの高感度検出による疾患バイオマーカー開発	徳田　隆彦	脳神経内科	5,200,000	補 委○	国立大学法人 大阪大学
パーキンソン病の代謝産物バイオマーカー創出およびその分子標的機構に基づく創薬シーズ同定	徳田　隆彦	脳神経内科	2,600,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
消化器癌の分泌型exosomeを介した新たな癌の進展機序の解明と実地臨床への応用	大辻　英吾	消化器外科	2,990,000	補○委	文部科学省
末梢血を用いた液体生検としての胃癌HER2遺伝子増幅解析法の開発	岡本　和真	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
分泌型癌抑制microRNAを用いた消化器癌の抗癌剤感受性予測と核酸治療法の開発	小松　周平	消化器外科	910,000	補○委	文部科学省
膵癌の新規スクリーニング法ならびに再発診断法の開発	村山　康利	消化器外科	1,430,000	補○委	文部科学省
胃癌の新しい癌抑制遺伝子RUNX3の細胞分化・癌化機構の解明と診断・診断への応用	阪倉　長平	消化器外科	1,006,368	補○委	文部科学省
新規治療とバイオマーカー確立に向けた胃癌周囲間質に特異的miRNAの網羅的解析	辻浦　誠浩	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
癌幹細胞に発現するTRPV2チャネルを標的とした食道癌新規治療法の開発	塩崎　敦	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
ゲノム構造解析による消化器癌の新規癌関連遺伝子の同定と臨床応用	渡邉　信之	消化器外科	2,075,632	補○委	文部科学省
膵癌幹細胞におけるクロライドイオン輸送体の発現機能解析と分子標的治療への応用	當麻　敦史	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
胃癌における血球由来exosomeを介した新たな癌の進展機序の解明と臨床への応用	有田　智洋	消化器外科	1,170,000	補○委	文部科学省
アクアポリン5発現解析に基づく新たな膵癌低浸透圧腹腔内パクリタキセル療法の開発	小菅　敏幸	消化器外科	2,080,000	補○委	文部科学省
環状RNAによるびまん性胃癌の悪性形質獲得とその分子機構の解明	庄田　勝俊	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
癌幹細胞におけるアポトーシス性容積減少を標的とした食道癌新規治療の開発	工藤　道弘	消化器外科	1,430,000	補○委	文部科学省
食道癌に対するGSTP1タンパク発現を指標とした新規個別化治療法の開発	藤原　斉	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
臨床応用を想定した〝自己体内再生型〟結合組織代用血管バイオチューブの多角的展開	神田　圭一	心臓血管外科	5,070,000	補○委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
僧帽弁狭窄に対するステントレス僧帽弁置換術の安全性と有効性の評価：多施設共同研究	夜久　均	心臓血管外科	4,356,530	補○ 委	文部科学省
生体内組織形成技術を用い人工物を使用せずに作成する循環器領域への代用組織の開発	渡辺　太治	心臓血管外科	2,518,389	補○ 委	文部科学省
血流解析を組み込んだ循環器診断システムの開発と次世代の予測医療の樹立	宮崎　翔平	心臓血管外科	1,306,578	補○ 委	文部科学省
不活性ガス再呼吸法による非侵襲的心拍出量計測法：開心術後リハビリへの応用	土井　潔	心臓血管外科	460,000	補○ 委	文部科学省
異種動物体内で自在に作製でき緊急手術にも対応可能な自己再生型小口径代用血管の開発	山南　将志	心臓血管外科	1,953,931	補○ 委	文部科学省
先天性心疾患の外科治療における自己結合組織による肺動脈形成素材の開発	前田　吉宣	心臓血管外科	1,178,850	補○ 委	文部科学省
心拍動下冠動脈バイパス術の長期成績：日本心臓血管外科手術データベースを用いた検討	沼田　智	心臓血管外科	2,014,600	補○ 委	文部科学省
先天性心疾患の外科治療における流体力学的解析の応用	宮崎　隆子	心臓血管外科	1,664,619	補○ 委	文部科学省
製品化ポリテトラフルオロエチレン肺動脈弁付き導管の開発	山岸　正明	心臓血管外科	2,052,740	補○ 委	文部科学省
異種チューブ・マトリックスを足場に患者体内で再生する動脈グラフトの開発	神田　圭一	心臓血管外科	2,054,210	補○ 委	文部科学省
異種脱細胞化結合組織管を足場に患者体内で急速形成される自家移植用代用血管の開発	神田 圭一	心臓血管外科	455,940	補○ 委	文部科学省
心筋分化誘導に関連するlncRNAの探索と解析	上 大介	心臓血管外科	910,000	補○ 委	文部科学省
成人先天性心疾患再手術戦略のための、先端ITを駆使した血流診断システムの構築	板谷 慶一	心臓血管外科	6,487,038	補○ 委	文部科学省
自家生体組織膜で被覆したstent Biocovered stentの開発	坂井　修	心臓血管外科	486,449	補○ 委	文部科学省
Non-coding RNA Y1のiPSリプログラミングにおける役割の解明	五條　理志	心臓血管外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己心膜製ステントレス僧帽弁置換術の安全性と効果に関する研究（17ｈk0102026h0003）	夜久　均	心臓血管外科	741,000	補 委○	公益財団法人日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発／細胞を用いた機能的な立体組織作製技術の研究開発／バイオ３Dプリンタで造形した小口径Scaffold free細胞人工血管の臨床開発	五條　理志	心臓血管外科	36,600,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
反転授業の呼吸器外科学臨床教育への導入と学習効果の検討	伊藤　和弘	呼吸器外科	687,989	補○ 委	文部科学省
悪性胸腺上皮性腫瘍のPD1/PDL1作用に関する病態解明と新たな免疫療法の開発	井上　匡美	呼吸器外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
エタノール放出発熱ポリマーによる微小スリガラス状肺癌の局所硬化治療法の基礎的検討	島田　順一	呼吸器外科	603,112	補○ 委	文部科学省
肺癌のパクリタキセル耐性に関わる関連タンパク質の同定とその機能解明	下村　雅律	呼吸器外科	1,381,639	補○ 委	文部科学省
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成 分担研究開発課題名：ドナーの呼吸管理について	井上　匡美	呼吸器外科	250,900	補 委○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
5-ALAによる新しいセンチネルリンパ節転移・断端診断法の開発	阪口　晃一	内分泌・乳腺外科	1,626,201	補○ 委	文部科学省
化学療法による皮膚障害に対する高濃度水素水の有用性に関する研究	田口　哲也	内分泌・乳腺外科	92,422	補○ 委	文部科学省
ICFA法による移植臓器組織中抗ドナー特異的HLA抗体の測定法の開発と臨床検討	吉村　了勇	移植・一般外科	1,922,478	補○ 委	文部科学省
RNA干渉を用いたドナー臓器修復・免疫寛容誘導戦略の前臨床大動物実験による開発	昇　修治	移植・一般外科	1,468,926	補○ 委	文部科学省
末梢神経損傷に対する細胞移植治療を目的とした新規シュワン細胞誘導法	素輪　善弘	形成外科	1,178,491	補○ 委	文部科学省
顎骨再建における手術支援装置の開発	沼尻　敏明	形成外科	2,990,000	補○ 委	文部科学省
iPS細胞に対してバイオリアクターを用いた新しい硝子様軟骨再生法の開発	久保　俊一	整形外科	5,703,496	補○ 委	文部科学省
関節内低酸素環境に着目したHIF-1α誘導運動療法の開発	新井　祐志	整形外科	5,590,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨折修復と体内時計の包括的研究	藤原　浩芳	整形外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
CD81を標的とした新規抗がん薬の開発	白井　寿治	整形外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
指電極の開発－神経合併症の軽減を目指して－	細井　邦彦	整形外科	1,030,948	補○ 委	文部科学省
骨粗鬆症性椎体骨折に対する自己多血小板血漿を用いた椎体形成術の開発	長江　将輝	整形外科	1,455,304	補○ 委	文部科学省
超高純度生体内吸収性固定材料の開発	岡　佳伸	整形外科	827,964	補○ 委	文部科学省
MRIを用いた骨質評価法の開発　ー骨質を画像化するー	堀井　基行	整形外科	2,216,057	補○ 委	文部科学省
小児脊柱側弯症に対する生体内三次元骨格動態解析に基づく動的脊柱装具の開発	高取　良太	整形外科	587,800	補○ 委	文部科学省
プリスチメリンを用いた新規骨肉腫治療薬の開発	寺内　竜	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ダイレクト・リプログラミング法で作成した骨芽細胞を用いた低侵襲的骨再生治療の開発	谷口　大吾	整形外科	1,427,266	補○ 委	文部科学省
脊髄functional MRIを用いた疼痛の定量評価法の確立	小田　良	整形外科	1,584,138	補○ 委	文部科学省
転移性骨腫瘍に対する局所制御と骨形成促進を目的とした非手術的新規治療法の開発	村田　博昭	整形外科	394,329	補○ 委	文部科学省
容量電場刺激を用いた新たな骨粗鬆症治療法の開発	吉田　隆司	整形外科	1,628,294	補○ 委	文部科学省
生理的低酸素環境の再現による軟骨細胞のストレス応答機構の究明	新井　祐志	整形外科	395,590	補○ 委	文部科学省
connexin43を分子標的とした関節リウマチに対する創薬基盤の構築	土田　真嗣	整形外科	1,101,866	補○ 委	文部科学省
HIF-1αをターゲットとした新しいOA治療法の開発	久保　俊一	整形外科	236,531	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ステロイド性骨壊死予防の臨床応用可能な条件の確立-高磁場MRIの定量評価を用いて	石田　雅史	整形外科	1,189,572	補○ 委	文部科学省
HO-1を用いた細胞ストレス耐性の増強による特発性大腿骨頭壊死症予防法の開発	齊藤　正純	整形外科	949,594	補○ 委	文部科学省
前十字靭帯再建後の靭帯リモデリングに基づく客観的なリハビリテーション指標の確立	中川　周士	整形外科	1,970,241	補○ 委	文部科学省
多血小板血漿および徐放担体を用いた前十字靭帯再建術の次世代治療戦略	井上　裕章	整形外科	1,701,158	補○ 委	文部科学省
有限要素法を用いた変形足に対する術前評価法の開発－オーダーメイド手術を目指して－	城戸　優充	整形外科	1,542,362	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症のエストロゲン関連受容体を介した増殖機構解明と新規分子標的治療の提案	北脇　城	産婦人科	780,000	補○ 委	文部科学省
エストロゲン関連受容体を標的とする新たな子宮体癌内分泌療法の開発	森　泰輔	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
動脈硬化リスクを軽減する新規ホルモン補充療法確立のための基礎的エビデンスの構築	伊藤　文武	産婦人科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
子宮体癌の新規内分泌療法を目的としたエストロゲン関連受容体のリガンド同定	松島　洋	産婦人科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
Estrogen related receptorの病態への意義と分子標的治療	北脇　城	産婦人科	2,100,000	補 委○	国立大学法人東京大学
アスリートに対するOC/LEP使用の啓発活動	北脇　城	産婦人科	700,000	補 委○	国立大学法人東京大学
SJS/TENの発症機序ならびに病態解明に向けた戦略的研究	外園　千恵	眼科	5,850,000	補○ 委	文部科学省
油層動態に基づく涙液層の形成・破壊の分子メカニズムの解明とその臨床応用	横井　則彦	眼科	2,045,680	補○ 委	文部科学省
マイボーム腺脂質、常在細菌叢、性ホルモンの関係する眼表面疾患の病態解明	鈴木　智	眼科	1,686,099	補○ 委	文部科学省
RSPO1を用いた角膜再生医療の基盤技術開発	永田　真帆	眼科	1,424,375	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞外小胞を介した骨格筋制御機構解明	佐藤　貴彦	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
学童近視における強度近視および後部ぶどう腫発症の予測因子の同定	稗田　牧	眼科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
広義原発開放隅角緑内障重症化の遺伝的要因の解明	森　和彦	眼科	575,403	補○ 委	文部科学省
全ゲノム解析による緑内障点眼薬の眼圧下降作用にかかわるバリアントの同定	池田　陽子	眼科	688,893	補○ 委	文部科学省
AMD擬似病態をin vitroで再構成する共培養系でのRPE/Mp相互作用解析	羽室　淳爾	眼科	1,185,683	補○ 委	文部科学省
統合的な異所性培養細胞移植による高次眼表面機能の代償的再生と制御機構の再構築	稲富　勉	眼科	1,203,978	補○ 委	文部科学省
角膜上皮細胞の特異性を規定している転写因子の機能解析と相互作用の解明	北澤　耕司	眼科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
加齢黄斑変性における網膜色素上皮のエピジェネティックな制御と正常化	畑中　宏樹	眼科	2,245,051	補○ 委	文部科学省
角膜移植長期予後予測因子の開発	丸山　悠子	眼科	2,919,580	補○ 委	文部科学省
サルコイドーシスぶどう膜炎における感染概念からの病態解明	永田　健児	眼科	1,970,740	補○ 委	文部科学省
細胞干渉を介在する細胞外分泌微粒子EVsによる角膜内皮細胞変性制御	木下　茂	眼科	8,060,000	補○ 委	文部科学省
IKZF1による眼表面炎症制御機構の解明ならびに新規抗炎症治療薬への応用	上田　真由美	眼科	642,401	補○ 委	文部科学省
遺伝子多型間相互作用解析による難治性眼表面疾患発症予測システム開発の先駆的研究	木下　茂	眼科	2,599,668	補○ 委	文部科学省
未分化増殖性ヒト角膜内皮細胞亜集団の in vitro 分化成熟法の創出	戸田　宗豊	眼科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
機能性miRNAによる角膜上皮幹細胞の生体恒常性維持機構の解明	中村　隆宏	眼科	1,820,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
角膜上皮に対する細胞移植キットの研究・シーズA90	横尾　誠一	眼科	3,600,000	補 委○	国立大学法人東京大学
多職種協働による地域包括ロービジョンケアシステム開発に関する研究	外園　千恵	眼科	670,000	補 委○	国立大学法人東北大学
難治性筋疾患水疱性角膜症の分子病態診断法開発と標準医療化	上野　盛夫	眼科	8,320,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Stevens－Johnson症候群慢性期の診断基準・実態調査と治療法の確立	外園　千恵	眼科	5,780,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
視機能が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法の標準化に関する研究（課題番号28-16）	外園　千恵	眼科	4,625,000	補 委○	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
筋萎縮の病態に迫るミトコンドリアのメカノバイオロジー	佐藤　貴彦	眼科	8,190,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性角結膜疾患に対する培養自家口腔粘膜上皮シート	外園　千恵	眼科	53,300,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築	外園　千恵	眼科	1,004,983	補 委○	国立大学法人筑波大学
培養角膜内皮細胞を用いた水疱性角膜症に対する革新的再生医療の早期薬事承認による社会還元	木下　茂	眼科	79,452,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国際ゲノム研究を基盤とした難治性眼疾患病態解明と治療戦略構築のための研究拠点形成	木下　茂	眼科	17,600,000	補 委○	日本学術振興会
再生医療のための細胞システム制御遺伝子発現リソースの構築	木下　茂	眼科	3,900,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
感冒薬による重症薬疹発症に関わる遺伝素因の同定並びに病態の解明	上田　真由美	眼科	21,870,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
概日リズムの変化がアレルギー疾患の発症と難治化におよぼす影響の分子機構の解明	加藤　則人	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
アトピー性皮膚炎におけるToll様受容体の役割の解明とそれに基づく新治療法の開発	峠岡　理沙	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
腫瘍特異的リンパ球をドラッグキャリアに用いた皮膚悪性腫瘍に対する新規治療法の開発	浅井　純	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Toll様受容体3が即時型アレルギーにおいて果たす役割と分子機構の解明	中村　直美	皮膚科	2,443,088	補○ 委	文部科学省
血管肉腫に対するPI3K経路阻害剤とエピジェネティクス制御化合物の併用効果の検討	和田　誠	皮膚科	2,359,108	補○ 委	文部科学省
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患政策研究分野)))	加藤　則人	皮膚科	2,000,000	補○ 委	厚生労働省
難治性膀胱上皮内癌に対する新規治療法としてのγδT細胞膀胱内注入療法の開発	中西　弘之	泌尿器科	1,169,979	補○ 委	文部科学省
3次元解剖情報に2次元リアルタイム超音波を同期させた穿刺ナビゲーションの開発	山田　恭弘	泌尿器科	1,689,718	補○ 委	文部科学省
膀胱上皮内癌に対する光力学的治療を目的とした複合型光ファイバーの開発	大石　正勝	泌尿器科	2,098,336	補○ 委	文部科学省
アンドロゲン作用低下を介した精巣腫瘍増悪メカニズムの解明	上田　崇	泌尿器科	1,689,972	補○ 委	文部科学省
前立腺癌細胞浸潤を促進する新規細胞膜結合型タンパク分解制御因子に関する研究	上田　紗弥 (伊藤紗弥)	泌尿器科	2,079,969	補○ 委	文部科学省
内視鏡手術に対応できる医療用癒着防止材の開発と創製	内藤　泰行	泌尿器科	2,620,636	補 委○	公益財団法人京都高度技術研究所
頭頸部扁平上皮癌に対する免疫遺伝子治療と分子標的薬併用治療についての検討	中野　宏	耳鼻咽喉科	990,575	補○ 委	文部科学省
気道防御機構としての下咽頭・喉頭の機能解剖学的研究	板東　秀樹	耳鼻咽喉科	923,401	補○ 委	文部科学省
脱細胞喉頭土台を用いた喉頭全摘後の喉頭再生に関する研究	平野　滋	耳鼻咽喉科	2,079,910	補○ 委	文部科学省
咽喉頭電気刺激による嚥下および呼吸中枢の協調性の改善に関する研究	杉山　庸一郎	耳鼻咽喉科	1,027,785	補○ 委	文部科学省
Opitz G/BBB症候群（全身の正中部に生じる形成不全症）の病態解明に向けて	中村　高志	耳鼻咽喉科	2,291,017	補○ 委	文部科学省
新規組織イメージング法を用いた頭頸部癌免疫特性の解析	辻川　敬裕	耳鼻咽喉科	1,430,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
強迫性障害における主観的時間とその生物学的基盤	酒井　雄希	精神科・心療内科	3,900,000	補○ 委	文部科学省
PTSDおよびうつ病モデル動物を用いた疾患鑑別のためのMRI画像研究	吉井 崇喜	精神科・心療内科	1,248,852	補○ 委	文部科学省
85歳以上の超高齢者を対象とした簡便な認知機能スクリーニング検査法の開発	加藤　佑佳	精神科・心療内科	1,699,171	補○ 委	文部科学省
うつ病を伴う強迫性障害に対する経頭蓋磁気刺激法の神経画像研究	中前　貴	精神科・心療内科	2,072,263	補○ 委	文部科学省
高齢者介護施設職員に対する神経心理学的知識の教育プログラムの開発と効果検証	大庭　輝	精神科・心療内科	1,096,945	補○ 委	文部科学省
高齢者介護施設利用者における薬剤性有害事象および薬剤関連エラーの臨床疫学的研究	綾仁　信貴	精神科・心療内科	1,092,114	補○ 委	文部科学省
アルツハイマー型認知症バイオマーカーとしての松果体体積の臨床応用	松岡　照之	精神科・心療内科	818,242	補○ 委	文部科学省
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発	松岡　照之	精神科・心療内科	7,484,400	補 委○	国立研究開発法人情報通信研究機構
高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築	松岡　照之	精神科・心療内科	11,897,018	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築	松岡　照之	精神科・心療内科	1,358,400	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発　題目：詐欺被害脆弱性検査（認知機能低下高齢者版）の開発	上野　大介	精神科・心療内科	3,056,455	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
PETによる心血管疾患の活動性の映像化と治療戦略への応用	玉木　長良	放射線科	5,339,692	補○ 委	文部科学省
アルツハイマー病に対する機械学習を用いた非侵襲的MRI バイオマーカーの創設	山田　惠	放射線科	870,220	補○ 委	文部科学省
子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発	山崎　秀哉	放射線科	619,482	補○ 委	文部科学省
前立腺肥大症に対する経皮的凍結療法：隣接臓器と周囲組織への影響の検討	田中　治	放射線科	402,130	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
フラットニングフィルターフリービームの基本物理線量特性に関する研究	尾方　俊至	放射線科	650,000	補○ 委	文部科学省
乳房ダイナミックMRI・早期造影動態解析を用いた新規乳腺病変評価法の構築	後藤　眞理子	放射線科	893,504	補○ 委	文部科学省
NBCA血管塞栓術におけるNBCA専用調整製剤の開発	林　奈津子	放射線科	1,176,041	補○ 委	文部科学省
SWIおよびIVIM-MRIを用いた子宮筋腫と肉腫の鑑別能の検討	山田　幸美	放射線科	1,252,611	補○ 委	文部科学省
肺スリガラス結節に対する媒体注入下凍結療法の基礎的研究	三浦　寛司	放射線科	1,276,902	補○ 委	文部科学省
胎児機能不全におけるIVIM-DWIを用いた新しい胎児臓器血流評価法の検討	山田　香織 （西田香織）	放射線科	112,675	補○ 委	文部科学省
グローバルな脳活動―脳血流量―脳温度のMRI計測に関する基礎的検討	酒井　晃二	放射線科	1,184,092	補○ 委	文部科学省
多階層的学際協働による医工学連携病態研究をどのように構築できるか？	酒井　晃二	放射線科	1,145,280	補 委○	日本学術振興会
インフラマソームによる神経炎症を標的とした慢性痛の新規治療戦略	天谷　文昌	麻酔科	4,160,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌PcrV-CpG(K3)-SPGワクチンの開発と前臨床試験	佐和　貞治	麻酔科	5,980,000	補○ 委	文部科学省
脳波ポワンカレプロットのヒステリシス解析を用いた即応的麻酔深度推定法の開発	林　和子	麻酔科	3,555,909	補○ 委	文部科学省
microRNAによる急性腎障害発症機序の解明と、早期診断バイオマーカーへの応用	影山　京子	麻酔科	3,130,822	補○ 委	文部科学省
多種画像診断モダリティーを用いた血流とエネルギー損失解析による周術期治療戦略検討	石井　真紀	麻酔科	1,039,346	補○ 委	文部科学省
脾臓由来M1型及びM2型単球系細胞を介した神経障害性疼痛発症のメカニズム解明	柴崎　雅志	麻酔科	911,441	補○ 委	文部科学省
急性腎障害に関与するmiRNA-ceRNAクロストークとバイオマーカーへの応用	徳平　夏子	麻酔科	2,127,317	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
病態解明および創薬を目標とした小児先天性心疾患患者の赤血球中microRNA解析	中山　力恒	麻酔科	2,450,018	補○ 委	文部科学省
２型糖尿病易感染性病態の解明と治療に向けた白血球遺伝子及びcfDNAの網羅的解析	前田　祥子	麻酔科	1,702,429	補○ 委	文部科学省
カナビノイド由来の新たなプロスタグランジン合成経路とその疼痛メカニズムへの関与	伊吹　京秀	麻酔科	2,436,143	補○ 委	文部科学省
オピオイドはTLR4を介して急性肺障害を増悪させるか？	松山　広樹	麻酔科	2,540,851	補○ 委	文部科学省
新規神経栄養因子MANFの小胞体ストレス軽減作用を介した神経障害性痛治療の可能性	天谷　文昌	麻酔科	1,166,546	補○ 委	文部科学省
単一ドメイン抗体によるグラム陰性菌Ⅲ型病原毒性の抑制探索	佐和　貞治	麻酔科	1,194,030	補○ 委	文部科学省
アレスチンと痛覚受容体の機能連関に注目した新たな慢性痛発症メカニズムの解析	天谷 文昌	麻酔科	570,000	補○ 委	文部科学省
内因性アルデヒドは術後痛覚過敏を増悪させるか？	松尾　佳那子	麻酔科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
新規経口抗凝固薬を対象とした、全血検体による薬効評価法の確立	小川　覚	麻酔科	1,453,394	補○ 委	文部科学省
ストレス性高カテコラミン血症が術後遷延痛を引き起こすメカニズムの解明	山崎　正記	麻酔科	330,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌性肺傷害に対する新規免疫療法の開発	加藤　秀哉	麻酔科	1,015,718	補○ 委	文部科学省
動脈波解析によるFrank-Starling 心機能曲線予測アルゴリズムの構築	田畑　雄一	麻酔科	270,000	補○ 委	文部科学省
急性肺傷害に対するレゾルビン内包化陰性電荷リポソーム吸入療法の開発	田畑　雄一	麻酔科	2,869,328	補○ 委	文部科学省
緑膿菌性肺炎に対する分子標的抗菌薬の開発	清水　優	麻酔科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
in vitro神経傷害モデルを用いた神経障害性疼痛発症のメカニズム解析	細川　豊史	疼痛・緩和ケア科	1,197,264	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
横紋筋肉腫に対するエクソソームデリバリーシステムを用いた新規細胞遺伝子治療の開発	細井　創	小児科	5,330,000	補○委	文部科学省
小児肥満におけるＦＴＯ遺伝子多型と肥満形成速度の関連解析	中島　久和	小児科	1,562,077	補○委	文部科学省
褐色脂肪細胞を標的としたAng 1-7の肥満治療への探索	森　潤	小児科	1,430,496	補○委	文部科学省
てんかん性脳症の予後改善に向けた創薬基盤研究	千代延　友裕	小児科	1,299,466	補○委	文部科学省
Siglec-9による活性化好中球細胞死誘導の分子学的機序とその臨床的意義の検討	加納　原	小児科	1,287,478	補○委	文部科学省
血清、髄液中microRNAを用いた横紋筋肉腫新規治療戦略の開発	宮地　充	小児科	1,430,000	補○委	文部科学省
小児がんにおける抗PD1抗体の臨床応用に向けた腫瘍免疫メカニズムの解明	土屋　邦彦	小児科	1,560,000	補○委	文部科学省
iPS細胞技術を用いたガンマグロブリン不応川崎病に対する新規治療標的分子の探索	池田　和幸	小児科	662,164	補○委	文部科学省
肺高血圧モデルにおける右心機能および心室間相互作用に対する心拍数抑制効果の検討	奥村　謙一	小児科	262,488	補○委	文部科学省
横紋筋肉腫に対する成長因子受容体を標的とした新規キメラ抗原受容体T細胞療法の開発	柳生　茂希	小児科	1,690,000	補○委	文部科学省
難治小児がんの特異的遺伝子発現とHDAC阻害剤による増殖抑制・分化誘導効果の検討	家原　知子	小児科	1,430,000	補○委	文部科学省
横紋筋肉腫におけるRAS変異に基づいたプレシジョン医療開発のための基礎的検討	菊地　顕	小児科	910,000	補○委	文部科学省
急性リンパ性白血病の薬剤耐性機序の分子基盤の解析	今村　俊彦	小児科	1,686,038	補○委	文部科学省
拡散テンソル画像を用いた極低出生体重児の治療評価と神経学的予後の検討	長谷川　龍志	小児科	597,983	補○委	文部科学省
BCP-ALL新規融合遺伝子OFD1-JAK2の機能解析と治療開発	坂本　謙一	小児科	2,037,728	補○委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
母体感染により発症する自閉症に対するフラボノイドの予防効果	吉田　路子	小児科	797,319	補○ 委	文部科学省
癌治療施設における妊孕性温存を意識したがん治療の実態調査（小児がんと関連領域・効率の良いガイドラインの運用に向けた手引きの作成（小児がんと関連領域）	細井　創	小児科	300,000	補 委○	国立大学法人東京大学
ゲノム情報と薬剤感受性予測に基づく、小児血液腫瘍における最適医療の実現に向けた研究 分担研究：晩期再発急性リンパ性白血病のバイオマーカーおよび治療標的の同定	今村　俊彦	小児科	3,000,000	補 委○	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
横紋筋肉腫を対象としたWT1ペプチドワクチンの開発について	細井　創	小児科	8,097,892	補 委○	公益社団法人日本医師会治験促進センター
小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	細井　創	小児科	12,382,026	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児期に冠動脈後遺症を来す川崎病における抗血小板薬事治療の再評価に関する研究	池田　和幸	小児科	299,780	補 委○	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究（17ek0109255s0601）	池田　和幸	小児科	300,000	補 委○	学校法人日本医科大学
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析　分担研究課題：STXBP1てんかん性脳症の病態解析	千代延　友裕	小児科	8,910,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
乳児期発症の急性リンパ性白血病に対する国際共同第III 相臨床試験に向けた多施設共同パイロット第II 相臨床試験の作成研究　分担研究課題：MLL-16 臨床試験本	今村　俊彦	小児科	310,000	補 委○	国立大学法大阪大学
アレルギーマーチのアウトカム尺度開発・大規模多施設共同研究組織の構築と運営・研究統括	細井　創	小児科	812,500	補 委○	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
神経芽腫に対するEngineered Stem Cellによる新規細胞療法の開発	田尻　達郎	小児外科	3,900,000	補○ 委	文部科学省
中動物モデルを用いた横隔膜全欠損型ヘルニアに対する胎児治療の開発	古川　泰三	小児外科	2,768,216	補○ 委	文部科学省
難治性リンパ管腫に対する分子標的治療と光線力学療法を併用した新規低侵襲治療の開発	文野　誠久	小児外科	1,579,419	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対するMEK阻害剤の前臨床試験	東　真弓	小児外科	717,411	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対する間葉系幹細胞を用いた腫瘍選択性ドラッグデリバリーシステムの開発	木村　幸積	小児外科	645,161	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
横隔膜全欠損に対する臍帯由来幹細胞を用いた横隔膜再生医療の開発	田尻　達郎	小児外科	2,267,295	補○ 委	文部科学省
骨再生医療のための新規羊膜上培養骨膜由来細胞シートの開発に関する研究	金村　成智	歯科	1,622,912	補○ 委	文部科学省
羊膜の組織修復作用と骨再生能に着目した新規培養歯根膜由来細胞シートに関する研究	雨宮　傑	歯科	1,390,936	補○ 委	文部科学省
足場とドラッグデリバリー機能を持つハイブリッドナノゲルを用いた顎骨再生と臨床応用	山本　俊郎	歯科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
歯髄疾患の治療を目指した神経分化誘導羊膜上歯髄由来細胞シートの作成	本城　賢一	歯科	2,519,252	補○ 委	文部科学省
歯髄幹細胞由来エクソソームとナノゲルを併用した末梢神経障害の新規治療法の開発	足立　哲也	歯科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
ラマン分光法を用いた顎骨壊死の病態解明と診断技術への応用	足立　圭司	歯科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
臨床応用にむけたテーラーメイド３D骨組織のナノ・ボトムアップ・ファブリケーション	佐藤　良樹	歯科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
HGF/c-Metシグナルを介した低酸素応答による椎間板恒常性維持機構の解析	三上　靖夫	リハビリテーション科	1,651,411	補○ 委	文部科学省
独自の圧負荷装置を用いた椎間板細胞のオートファジー機構の解明と制御方法の確立	池田　巧	リハビリテーション科	1,734,338	補○ 委	文部科学省
慢性心不全患者のサルコペニアに対する栄養療法を併用するリハビリテーションの効果	相良　亜木子	リハビリテーション科	2,989,469	補○ 委	文部科学省
検査法の開発	稲葉　亨	臨床検査部	100,001	補 委○	国立大学法人大阪大学
中間群および低悪性度に分類される原発性骨腫瘍の臨床病理学的解析	小西　英一	病院病理部	979,532	補○ 委	文部科学省
順序ロジスティック回帰分析を用いたペグフィルグラスチム投与適応症例の予測因子	神林　祐子	薬剤部	550,000	補○ 委	文部科学省
わが国で発見されたTFG遺伝子異常による運動ニューロン病の海外学術調査と病態解明	中川　正法	遺伝子診療部	5,200,000	補○ 委	文部科学省

小計　15

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究	中川　正法	遺伝子診療部	3,250,000	補 委○	学校法人聖マリアンナ医科大学
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット（HAL-HN01）を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	中川　正法	遺伝子診療部	1,170,000	補 委○	独立行政法人国立病院機構新潟病院
シャルコー・マリー・トゥース病の診療エビデンスの創出と臨床試験の基盤を構築する研究（課題番号17ek0109271h0001）	中川　正法	遺伝子診療部	6,760,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腫瘍発生における多様なゲノム構造異常およびキメラ遺伝子形成の分子機構の解明	滝　智彦	遺伝子診療部	1,607,388	補○ 委	文部科学省
小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	滝　智彦	遺伝子診療部	780,000	補 委○	国立大学法人京都大学

小計　5

計　275件

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Harutsugu Tatebe	総合診療科	Quantification of plasma phosphorylated tau to use as a biomarker for brain Alzheimer pathology: pilot case-control studies including patients with Alzheimer's disease and down syndrome.	Mol Neurodegener. 2017 Sep 4;12(1):63.	Original Article
2	Seko Y	消化器内科	Combination of PNPLA3 and TLL1 polymorphism can predict advanced fibrosis in Japanese patients with nonalcoholic fatty liver disease.	J Gastroenterol. 2018 Mar;53(3):438-448.	Original Article
3	Seko Y	消化器内科	Insulin resistance increases the risk of incident type 2 diabetes mellitus in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 2018 Feb;48(3):E42-E51.	Original Article
4	Seko Y	消化器内科	Effects of canagliflozin, an SGLT2 inhibitor, on hepatic function in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: pooled and subgroup analyses of clinical trials.	J Gastroenterol. 2018 Jan;53(1):140-151.	Original Article
5	Mitsuyoshi H	消化器内科	Hepatic nucleotide binding oligomerization domain-like receptors pyrin domain-containing 3 inflammasomes are associated with the histologic severity of non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 2017 Dec;47(13):1459-1468.	Original Article
6	Moriguchi M	消化器内科	Sorafenib versus Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy as Initial Treatment for Hepatocellular Carcinoma with Advanced Portal Vein Tumor Thrombosis.	Liver Cancer. 2017 Nov;6(4):275-286.	Original Article
7	Seko Y	消化器内科	Effect of 12-week dulaglutide therapy in Japanese patients with biopsy-proven non-alcoholic fatty liver disease and type 2 diabetes mellitus.	Hepatol Res. 2017 Oct;47(11):1206-1211.	Original Article
8	Seko Y	消化器内科	Development of hepatocellular carcinoma in Japanese patients with biopsy-proven non-alcoholic fatty liver disease: Association between PNPLA3 genotype and hepatocarcinogenesis/fibrosis progression.	Hepatol Res. 2017 Oct;47(11):1083-1092.	Original Article
9	Seko Y	消化器内科	Effect of sodium glucose cotransporter 2 inhibitor on liver function tests in Japanese patients with non-alcoholic fatty liver disease and type 2 diabetes mellitus.	Hepatol Res. 2017 Sep;47(10):1072-1078.	Original Article
10	Okajima A	消化器内科	Liver stiffness measurement to platelet ratio index predicts the stage of liver fibrosis in non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 2017 Jul;47(8):721-730.	Original Article
11	Moriguchi M	消化器内科	A Review of Non-operative Treatments for Hepatocellular Carcinoma with Advanced Portal Vein Tumor Thrombus.	J Clin Transl Hepatol. 2017 Jun 28;5(2):177-183.	Review
12	Dohi O	消化器内科	Magnifying Blue Laser Imaging versus Magnifying Narrow-Band Imaging for the Diagnosis of Early Gastric Cancer: A Prospective, Multicenter, Comparative Study.	Digestion 2017Aug; 96(3): 127-134.	Original
13	Hirose R	消化器内科	Mechanism of human influenza virus RNA persistence and virion survival in feces: mucus protects virions from acid and digestive juices.	The Journal of infectious diseases 2017Jul; 216(1): 105-109.	Original

小計 13

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
14	Hirose R	消化器内科	Histopathological analysis of cold snare polypectomy and its indication for colorectal polyps 10-14mm in diameter.	Dig Endosc 2017Jul; 29(5): 594-601.	Original
15	Kimura-Tsuchiya R	消化器内科	Magnifying Endoscopy with Blue Laser Imaging Improves the Microstructure Visualization in Early Gastric Cancer: Comparison of Magnifying Endoscopy with Narrow-Band Imaging.	Gastroenterology research and practice 2017; 2017Aug: 8303046.	Original
16	Uchiyama K	消化器内科	Assessment of endoscopic mucosal healing of ulcerative colitis using linked colour imaging, a novel endoscopic enhancement system.	Journal of Crohn's & colitis 2017Aug; 11(8): 963-969.	Original
17	Uchiyama K	消化器内科	Serum metabolomics analysis for early detection of colorectal cancer.	J Gastroenterol 2017Jun; 52(6): 677-694.	Original
18	Uchiyama K	消化器内科	Endoscopic submucosal dissection of T1 cancer with colonic diverticulum by pocket-creation method.	Dig Endosc 2017Sep; 29(6): 726-727.	Original
19	Uchiyama K	消化器内科	Tips for safety in endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors.	Ann Transl Med 2017Apr; 5(8): 185.	Original
20	Yoshida N	消化器内科	Linked color imaging improves the visibility of colorectal polyps: a video study.	Endosc Int Open 2017Jun; 5(6): E518-E525.	Original
21	Yoshida N	消化器内科	Linked color imaging improves the visibility of various featured colorectal polyps in an endoscopist's visibility and color difference value.	International journal of colorectal disease 2017Sep; 32(9): 1253-1260.	Original
22	Yoshida N	消化器内科	A novel lens cleaner to prevent water drop adhesions during colonoscopy and esophagogastroduodenoscopy.	Endosc Int Open 2017Dec; 5(12): E1235-e1241.	Original
23	Yoshida N	消化器内科	Efficacy of a Novel Narrow Knife with Water Jet Function for Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection.	Gastroenterology research and practice 2017; 2017Sep: 5897369.	Original
24	Hirose R	消化器内科	Development of a new ex vivo model for evaluation of endoscopic submucosal injection materials performance.	Journal of the mechanical behavior of biomedical materials 2018Mar; 79: 219-225.	Original
25	Naito Y	消化器内科	Intestinal Dysbiosis Secondary to Proton-Pump Inhibitor Use.	Digestion 2018Feb; 97(2): 195-204.	Review
26	Takagi T	消化器内科	The influence of long-term use of proton pump inhibitors on the gut microbiota: an age-sex-matched case-control study.	J Clin Biochem Nutr 2018 Jan; 62(1): 100-105.	Original
27	Yoshida N.	消化器内科	A Diminutive T1 Cancer 4 mm in Size Resected by Cold Snare Polypectomy.	Case Rep Gastroenterol 2018Jan; 12(1): 27-31.	Original
28	Suyama Y	消化器内科	Mucus reduction promotes acetyl salicylic acid-induced small intestinal mucosal injury in rats.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Mar 25;498(1):228-233. doi: 10.1016/j.bbrc.2018.02.202. Epub 2018 Mar 6	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
29	Yasuda-Onozawa Y	消化器内科	Rebamipide upregulates mucin secretion of intestinal goblet cells via Akt phosphorylation.	Mol Med Rep. 2017 Dec;16(6):8216-8222. doi: 10.3892/mmr.2017.7647. Epub 2017 Sep 28.	Original Article
30	Hirose R	消化器内科	Development of a new ex vivo model for evaluation of endoscopic submucosal injection materials performance.	. Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials, 79:219-225, 2018Mar.	Original Article
31	Zen Kan	循環器内科	Drug-eluting stenting for femoropopliteal Lesions, followed by cilostazol treatment, reduces stent restenosis in patients with symptomatic peripheral artery disease.	Journal of Vacular Surgery. 2017 Jun.	Original Article
32	Hoshino Atsushi	循環器内科	Cytosolic P53 inhibitgs Parkin-medoated mintoohagy and romotes mitochondrial dysfunction in the mouse heart.	Nature Communications. 2017 Aug.	Original Article
33	Shirota Ayumi	循環器内科	Ventricular fusion beat on echocardiography.	Open Journal of Clinical&medical Case Reports: 3(8) 2017Apr	Original Article
34	Sato Yoshimi	循環器内科	Third and Fourth Heart Sounds and Mycardial Fibrosis in Hypertrophic Cardiomyopathy.	Circulation Journal. 2017 Sep.	Original Article
35	Kadoya Yoshito	循環器内科	Intraluminal Fibrous Webs in Brachaial Artery Fibromuscular Dysplasia.	JACC Cardiovasc Interventions. 2017 Sep	Original Article
36	Kadoya Yoshito	循環器内科	Newly Designed Side-Grooved Guideing Sheath for the Endovascular Treatment of Superficial Femoral Artery Chronis Total Occlusion.	JACC Cardiovasc Interventions. 2017 Aug.	Original Article
37	Kadoya Yoshito	循環器内科	″pseudo aortoiliac bifurcation″ leading to significiant plaque shifting in the endovascular treatment of an aortoiliac bifurcation lesion: a case report.	BMC Cardiovaslular Disorders . 2017 Jul .	Original Article
38	Yanishi Kenji	循環器内科	Therapeutic angiogenesis for peripheral artery diseases by antologous bone marrow cell transplantation.	Therapeutic Angiogenesis .2017 Jul	Original Article
39	Yamano Michiyo	循環器内科	Impact of left Ventricular Diastolic Property on left atrial function from simultaneous left atrial and ventricular Three-Dimensional Echocardiographic volume measurement.	American Journal od cardiology. 2017 May	Original Article
40	Sakai Chieko	循環器内科	Hypoglycemia-induced silent myocardial ischemia in a patient with Diabetes.	Open Journal of Clinical & Medicak Case Reports. 3(8)2017Aug	Original Article
41	Kodama Naotoshi	循環器内科	Impact of Door-to-Ballon Time in Patients with ST-Elevation Myocardial Infarction who arrived by Self-Transport-Acute Myocardial Infarction- Kyoto Multi-Center Risk Study Group.	Circulation Journal. 2017 Oct	Original Article
42	Yamasaki Takashi	循環器内科	Late-onset Mitochondrian Cardiomyopathy Triggered by Anticancer Treatment.	Internal Medicine. 2017 Jun	Original Article
43	Miyagawa Koutaro	循環器内科	Loss of MURC/Cavin-4 induces JNK and MMP-9 activity enhancement in vascular smooth muscle cells and exacerbates abdominal aortic aneurysm.	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jun	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
44	Sakai Chieko	循環器内科	Imaging of Right-to-Left Shunt in an Adult Patient with Unroofed Coronary Sinus with Persistent Left Superior Vena Cava.	International Heart Journal 2017 Dec	Original Article
45	Uchihashi Motoki	循環器内科	Cardiac-Specific Bdh1 Overexpression Ameliorates Oxidative Stress and Cardiac Remodeling in Pressure Overload-Induced Heart Failure.	Circulation Heart Failure. 2017 Dec	Original Article
46	Ueno Daisuke	循環器内科	A New Method for Hemostasis of a Pseudoaneurysm Using Autologous Blood.	JACC Cardiovasc Intervention. 2017 Jun	Original Article
47	Senoo Keitaro	循環器内科	Silent Cerebral Infarction in East Asian vs. Non-Asian Atrial Fibrillation Patients-Meta-Analysis.	Circulation Journal. 2018 Feb	Original Article
48	Hara Masayuki	腎臓内科	Robust circadian clock oscillation anda aosmotic rtythems in inner medulla reflecting cortico-medullary osmotic grandient rhythm in rodent kidney.	Scientific Reports .2017 Aug	Original Article
49	Kamezaki Michitsugu	腎臓内科	Unusuak Proliferative Glomerulonephritis in a Patient Diagnosed to Have Hypoparathyrodism, Sensorineural Deafness, and Renal Dysplasia(HDR)Syndrome with a Novel Mutation in the GATA3 Gene.	Internal Medicine. 2017 Jun	Original Article
50	Tamoto Yuuta	腎臓内科	Extranodal NK/T-cell Lymphoma, Nasal Type Accompanied by PR3-ANCA-associated Glomerulonephritis.	Internal Medicine 2017 Aug.	Original Article
51	Kamezaki Michitsugu	腎臓内科	Comprehensive renoprotective effects of ipragliflozen on early diabetic nephropathy in mice.	Scientific Reports .2018 Mar	Original Article
52	Yamada Tadaaki	呼吸器内科	Histone Deacetylase Inhibition Enhances the Antitumor Activity of a MEK Inhibitor in Lung Cancer Cells Harboring RAS Mutations.	Mol Cancer Ther. 2018 Jan;17(1):17-25.	Original Article
53	Chikako Oyabu	内分泌・糖尿病・代謝内科	Maximum home blood pressure is a useful indicator of diabetic nephropathy in patients with type 2 diabetes mellitus: KAMOGAWA-HBP study.	Diabetes and Vascular Disease Research. 14(6); 477-484, Nov 2017.	Original Article
54	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Urinary pH is a predictor of diabetes in men; a population based large scale cohort study.	Diabetes Research And Clinical Practice. 130; 9-14. Aug 2017.	Original Article
55	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Fatty liver as a risk factor for progression from metabolically healthy to metabolically abnormal in non-overweight individuals.	Endocrine. 57(1); 89-97, Jul 2017.	Original Article
56	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Nonoverweight nonalcoholic fatty liver disease and incident cardiovascular disease: A post hoc analysis of a cohort study.	Medicine (Baltimore). 96(18); e6712, May 2017.	Original Article
57	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Weight gain since age of 20 as risk of metabolic syndrome even in non-overweight individuals.	Endocrine. 58(2); 253-261, Nov 2017.	Original Article
58	Shinobu Matsumoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Home Blood Pressure Variability From the Stored Memory Is Correlated With Albuminuria, but From the Logbook Is not	American Journal of Hypertens. 30(10); 993-998, Oct 2017.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
59	Kazuteru Mitsuhashi	内分泌・糖尿病・代謝内科	Combined effect of body mass index and waist-height ratio on incident diabetes; a population based cohort study.	Journal of Clinical Biochemistry And Nutrition. 61(2); 118-122, Sep 2017.	Original Article
60	Kazuteru Mitsuhashi	内分泌・糖尿病・代謝内科	Impact of fatty liver disease and metabolic syndrome on incident type 2 diabetes; a population based cohort study.	Endocrine Journal. 64(11); 1105-1114, Nov 2017.	Original Article
61	Akane Miki	内分泌・糖尿病・代謝内科	Urinary pH reflects dietary acid load in patients with type 2 diabetes.	Journal of Clinical Biochemistry And Nutrition. 61(1); 74-77, Jul 2017.	Original Article
62	Akane Miki	内分泌・糖尿病・代謝内科	Protein Intake, Especially Vegetable Protein Intake, Is Associated with Higher Skeletal Muscle Mass in Elderly Patients with Type 2 Diabetes.	J Diabetes Res. doi: 10.1155/2017/7985728, Oct 2017.	Original Article
63	Ota S, Iwai T, Kawaji Y, Fujino T, etal	血液内科	A treatment refractory CD30-positive diffuse large B cell lymphoma in the ileal neobladder.	Ann Hematol. 2017 Apr;96(4):683-684.	Original Article
64	Tsukamoto T, Kiyota M, Kawata E,etal	血液内科	Detection of chromosomal abnormalities by G-banding and prognostic impact in follicular lymphoma in the rituximab era.	Int J Hematol. 2017 May;105(5):658-667.	Original Article
65	Takimoto T, Maegawa S, Tatsumi H, etal	血液内科	Extranodal marginal zone lymphoma of the uterine cervix with concomitant copy number gains of the MALT1 and BCL2 genes: A case report.	Oncol Lett. 2017 May;13(5):3641-3645.	Case report
66	Kuroda J, Chinen Y.	血液内科	Multiple myeloma: pathophysiology and progress in management.	Rinsho Ketsueki. 2017 May ;58:487-497.	Original Article
67	Tatekawa S, Chinen Y, Ri M,etal	血液内科	Epigenetic repression of miR-375 is the dominant mechanism for constitutive activation of the PDPK1/RPS6KA3 signalling axis in multiple myeloma.	Br J Haematol. 2017 Aug;178(4):534-546	Original Article
68	Kuroda J, Shimura Y.	血液内科	Proteasome inhibitors in first-line treatment of transplant-ineligible multiple myeloma patients.	Rinsho Ketsueki. 2017 Aug 58:999-1005	Original Article
69	Kuroda J.	血液内科	Therapeutic approach for relapsed/refractory multiple myeloma: the logic and practice.	Rinsho Ketsueki. 2017 Oct;58:2058-2066.	Original Article
70	Tsukamoto T, Nakano M, Sato R, etal	血液内科	High-risk follicular lymphomas harbour more somatic mutations including those in the AID-motif.	Sci Rep. 2017 Oct 25;7(1):14039.	Original Article
71	Tanba K, Chinen Y, Uchiyama H,etal	血液内科	Prognostic impact of a past or synchronous second cancer in diffuse large B cell lymphoma.	Blood Cancer J. 2018 Jan 25;8(1):1.	Original Article
72	Maegawa S, Chinen Y, Shimura Y,etal	血液内科	Phosphoinositide-dependent protein kinase 1 is a potential novel therapeutic target in mantle cell lymphoma.	Exp Hematol. 2018 Mar;59:72-81.	Original Article
73	Mizuno Y, Tsukamoto T, Kawata E, etal	血液内科	Chromosomal abnormality variation detected by G-banding is associated with prognosis of diffuse large B-cell lymphoma treated by R-CHOP-based therapy.	Cancer Med. 2018 Mar;7(3):655-664.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
74	Tatebe H, Kasai T, Ohmichi Tet al.	脳神経内科	Quantification of plasma phosphorylated tau to use as a biomarker for brain Alzheimer pathology: pilot case-control studies including patients with Alzheimer's disease and down syndrome.	Mol Neurodegener. 2017.Sep;12(1):63.	Original Article
75	Ohmichi T, Kondo M, Itsukage M et al.	脳神経内科	Usefulness of the convexity apparent hyperperfusion sign in (123)I-iodoamphetamine brain perfusion SPECT for the diagnosis of idiopathic normal pressure hydrocephalus.	J Neurosurg. 2018Mar:1-8.	Original Article
76	Kasai T, Tatebe H, Kondo M et al.	脳神経内科	Increased levels of plasma total tau in adult Down syndrome.	PLoS One. 2017Nov;12(11):e0188802.	Original Article
77	Mizuta I, Watanabe-Hosomi A, Koizumi T et al.	脳神経内科	New diagnostic criteria for cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukocencephalopathy in Japan.	J Neurol Sci. 2017Oct;381:62-7.	Original Article
78	Kitani-Morii F, Imamura K, Kondo T et al.	脳神経内科	Analysis of neural crest cells from Charcot-Marie-Tooth disease patients demonstrates disease-relevant molecular signature.	Neuroreport. 2017Sep;28(13):814-21.	Original Article
79	Yoshida T, Yasuda R, Mizuta I et al.	脳神経内科	Quantitative Evaluation of Brain Stem Atrophy Using Magnetic Resonance Imaging in Adult Patients with Alexander Disease.	Eur Neurol. 2017Apr;77(5-6):296-302.	Original Article
80	Tsuji Y, Noto YI, Shiga K et al.	脳神経内科	A muscle ultrasound score in the diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis.	Clin Neurophysiol. 2017Jun;128(6):1069-74.	Original Article
81	Hiroki Shimizu	消化器外科	Short- and Long-term Progress of Recurrent Laryngeal Nerve Paralysis After Subtotal Esophagectomy.	Anticancer Research37(4):2019-2023, 2017 Apr	Original Article
82	Kenichi Aratani	消化器外科	Overexpression of EGFR as an Independent Prognostic Factor in Adenocarcinoma of the Esophagogastric Junction.	Anticancer Research37(6):3129-3135, 2017 Jun	Original Article
83	Michihiro Kudo	消化器外科	Efficacy of additional surgical resection after endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer.	Anticancer Research37(9):5301-5307, 2017 Sep	Original Article
84	Keiji Nishibeppu	消化器外科	Venous invasion as a risk factor for recurrence after gastrectomy followed by chemotherapy for stage III gastric cancer.	BMC Cancer.18(1):108-, 2018 Jan	Original Article
85	Taisuke Imamura	消化器外科	Overexpression of ZRF1 is related to tumor malignant potential and a poor outcome of gastric carcinoma	Carcinogenesis39(2):263-271, 2018 Feb	Original Article
86	Sachie Tanaka	消化器外科	Cytosolic Cl- Affects the Anticancer Activity of Paclitaxel in the Gastric Cancer Cell Line, MKN28 Cell.	Cellular Physiology and Biochemistry42(1):68-80, 2017 May（オンライン）	Original Article
87	Hitoshi Fujiwara	消化器外科	Perioperative outcomes of single-port mediastinoscope-assisted transhiatal esophagectomy for thoracic esophageal cancer.	Diseases of the esophagus30(10):1-8, 2017 Oct	Original Article
88	Atsushi Shiozaki	消化器外科	Hand-assisted technique beneficial for laparoscopic transhiatal esophagectomy with en-bloc dissection of middle and lower mediastinal lymph nodes: roles of the operator's left hand.	Esophagus14:138-145, 2017 Apr	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Takuma Ohashi	消化器外科	Monitoring with sensitive tumor markers contributes to decision-making and better prognosis in gastric cancer patients with peritoneal recurrence.	International Journal of Clinical Oncology22(5): 897-904., 2017 Oct	Original Article
90	Michihiro Kudo	消化器外科	Heat shock exerts anticancer effects on liver cancer via autophagic degradation of aquaporin 5.	International Journal of Oncology50(5):1857-1867, 2017 May	Original Article
91	Atsushi Shiozaki	消化器外科	Esophageal cancer stem cells are suppressed by tranilast, a TRPV2 channel inhibitor.	Journal of Gastroenterology53(2): 197-207, 2018 Feb	Original Article
92	Taisuke Imamura	消化器外科	Reconstruction method as an independent risk factor for postoperative bone mineral density loss in gastric cancer.	Journal of gastroenterology and Hepatology33(2):418-425, 2018 Feb	Original Article
93	Hirotaka Konishi	消化器外科	Influence of magnesium and parathyroid hormone on cisplatin-induced nephrotoxicity in esophageal squamous cell carcinoma	Oncology Letters15(1): 658-664, 2018 Jan	Original Article
94	Katsutoshi Shoda	消化器外科	Clinical utility of circulating cell-free Epstein-Barr virus DNA in patients with gastric cancer.	Oncotarget8(17):28796-28804, 2017 Apr	Original Article
95	Hiroaki Nagata	消化器外科	Genome-wide screening of DNA methylation associated with lymph node metastasis in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncotarget8(23):37740-37750, 2017 Jun	Original Article
96	Kenichi Aratani	消化器外科	Overexpression of CTEN relates to tumor malignant potential and poor outcomes of adenocarcinoma of the esophagogastric junction.	Oncotarget8(48):84112-84122, 2017 Sep	Original Article
97	Toshiyuki Kosuga	消化器外科	Blockade of potassium ion transports enhances hypotonicity-induced cytocidal effects in gastric cancer.	Oncotarget8(60): 101394-101405, 2017 Sep	Original Article
98	Taisuke Imamura	消化器外科	Low plasma levels of miR-101 are associated with tumor progression in gastric cancer.	Oncotarget8(63): 106538-106550, 2017 Sep	Original Article
99	Hisataka Matsuo	消化器外科	Efficient fluorescence detection of protoporphyrin IX in metastatic lymph nodes of murine colorectal cancer stained with indigo carmine.	Photodiagnosis and Photodynamic Therapy19:175-180, 2017 Sep	Original Article
100	Keiji Nishibeppu	消化器外科	A successful case of a para-aortic lymphbocele treated with autologous peripheral blood injection.	Radiology case reports12(4):760-763, 2017 Dec	Case report
101	Hidekazu Hiramoto	消化器外科	miR-509-5p and miR-1243 increase the sensitivity to gemcitabine by inhibiting epithelial-mesenchymal transition in pancreatic cancer.	Scientific Reports7(1): 4002-, 2017 Jun (オンライン)	Original Article
102	Taisuke Imamura	消化器外科	Depleted tumor suppressor miR-107 in plasma relates to tumor progression and is a novel therapeutic target in pancreatic cancer.	Scientific reports7(1): 5708-, 2017 Jul (オンライン)	Original Article
103	Toshiyuki Kosuga	消化器外科	Clinical and surgical factors associated with organ/space surgical site infection after laparoscopic gastrectomy for gastric cancer.	Surgical Endoscopy31(4): 1667-1674, 2017 Apr	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
104	Atsushi Shiozaki	消化器外科	Regulation of osmolality for cancer treatment.	The journal of physiologiacal sciences67(3):353-360, 2017 May	Original Article
105	Tsutomu Kawaguchi	消化器外科	Overexpression of TRIM44 is related to invasive potential and malignant outcomes in esophageal squamous cell carcinoma.	Tumor Biology39(6):1-9, 2017 Jun	Original Article
106	Wataru Okajima	消化器外科	Liquid biopsy in patients with hepatocellular carcinoma: Circulating tumor cells and cell-free nucleic acids.	World Journal of Gastroenterology23(31):5650-5668, 2017 Aug	Original Article
107	Numata S, Itatani K, Kawajiri H et al.	心臓血管外科	Computational fluid dynamics simulation of the right subclavian artery cannulation.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Aug;154(2):480-487	Original Article
108	Ohira S, Yamazaki S, Numata S et al.	心臓血管外科	Ten-year experience of endocardial linear infarct exclusion technique for ischaemic cardiomyopathy.	Eur J Cardiothorac Surg. 2017 Sep 25. doi: 10.1093	Case report
109	Ohira S, Yaku H.	心臓血管外科	Carotid Doppler Before Aortic Valve Replacement and Perioperative Management.	Ann Thorac Surg. 2017 Sep;104(3):1096-1097.	Case report
110	Ohira S, Doi K, Numata S et al.	心臓血管外科	Single-Centre Experience of Off-Pump Multi-Vessel Coronary Artery Bypass Grafting Using Proximal Suture Device.	Heart Lung Circ. 2017 Oct;26(10):1105-1112.	Case report
111	Itatani K, Miyazaki S, Furusawa T et al.	心臓血管外科	New imaging tools in cardiovascular medicine: computational fluid dynamics and 4D flow MRI.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Nov;65(11):611-621	Original Article
112	Kawajiri H, Yaku H, Glineur D et al	心臓血管外科	Clampless versus clamped coronary bypass grafting: does it make a difference?	Curr Opin Cardiol. 2017 Nov;32(6):737-743.	Original Article
113	Ono Hisako	内分泌・乳腺外科	Ribosomal protein S3 regulates XIAP expression independently of the NF-κB pathway in breast cancer cells.	Oncology Reports・2017 Nov;38(5):3205-3210.	Original Article
114	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Effect of denosumab administration on low bone mineral density (T-score -1.0 to -2.5) in postmenopausal Japanese women receiving adjuvant aromatase inhibitors for non-metastatic breast cancer.	Journal of Bone and Mineral Metabolism・2017 Nov 7. doi: 10.1007/s00774-017-0884-x. [Epub ahead of	Original Article
115	Nakao T, Nakamura T, Masuda K, et al	移植一般外科	Dexamethasone Prolongs Cardiac Allograft Survival in a Murine Model Through Myeloid-derived Suppressor Cells.	Transplant Proc. 2018 Jan - Feb;50(1):299-304.	Original Article
116	Nakamura T, Iida T, Ushigome H, et al	移植一般外科	Risk Factors and Management for Biliary Complications Following Adult Living-Donor Liver Transplantation.	Transplant Proc. 2017 Jun;49(5):967-970.	Original Article
117	Harada S, Nakamura T, Ushigome H, et al	移植一般外科	Beneficial Effects of High-Dose Mizoribine on ABO-Incompatible Living-Related Kidney Transplantation: Two-Year Results by a Japanese Multicenter Study.	Ann Transplant. 2017 Nov 8;22:671-676.	Original Article
118	Nakamura T, Ushigome H, Watabe K, et al	移植一般外科	Influences of Pre-formed Donor-Specific Anti-Human Leukocyte Antigen Antibodies in Living-Donor Renal Transplantation: Results With Graft Immunocomplex Capture Fluorescence Analysis.	Transplant Proc. 2017 Jun;49(5):955-958.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Harada S, Ushigome H, Masuda K, et al	移植一般外科	Living Donor Kidney Transplantation After Brachytherapy for Prostate Cancer: Case Report.	Transplant Proc. 2017 Jun;49(5):1187-1188.	Case report
120	Koshino K, Ushigome H, Masuda K, et al	移植一般外科	Effective Treatment With Daclatasvir and Asunaprevir in Kidney Transplant Patients Infected With Hepatitis C Virus: A Report of Two Cases.	Transplant Proc. 2017 Jun;49(5):1053-1055.	Case report
121	Nakamura T, Ushigome H, Watabe K, et al	移植一般外科	Graft Immunocomplex Capture Fluorescence Analysis to Detect Donor-Specific Antibodies and HLA Antigen Complexes in the Allograft.	Immunol Invest. 2017 Apr;46(3):295-304.	Original Article
122	Numajiri T, Morita D, Tsujiko S, et al.	形成外科	Dual Vascular Free Anterolateral Thigh Flap	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2017;5:e1448./ 2017 Aug	Original Article
123	Numajiri T, Tsujiko S, Morita D, et al	形成外科	A fixation guide for the accurate insertion of fibular segments in mandibular reconstruction	JPRAS Open 12 1-8 2017 / 2017June	Original Article
124	Sowa Y, Kishida T, Tomita K	形成外科	Direct Conversion of Human Fibroblasts into Schwann Cells That Facilitate Regeneration of Injured Peripheral Nerve In Vivo.	Stem Cells Transl Med 6:1207-1216, 2017Apr.	Original Article
125	Sowa Y, Itsukage S, Morita D	形成外科	Inverted Nipple Correction with Selective Dissection of Lactiferous Ducts Using an Operative Microscope and a Traction Technique.	Aesthetic Plast Surg 41:1045-1048, 2017Apr.	Original Article
126	Sowa Y, Morihara T, Kushida R	形成外科	Long-term prospective assessment of shoulder function after breast reconstruction involving a latissimus dorsi muscle flap transfer and postoperative radiotherapy.	Breast Cancer. 24:362-368,2017	Original Article
127	Sowa Y, Numajiri T, Nakatsukasa K	形成外科	Comparison of morbidity-related seroma formation following conventional latissimus dorsi flap versus muscle-sparing latissimus dorsi flap breast reconstruction.	Ann Surg Treat Res 93:119-124,2017Sep.	Original Article
128	Kawarazaki A, Horinaka M, Yasuda S	形成外科	Sulforaphane suppresses cell growth and collagen expression of keloid fibroblasts.	Wound Repair Regen 25:224-233, 2017Apr.	Original Article
129	Itsukage S, Sowa Y, Goto M	形成外科	Breast Volume Measurement by Recycling the Data Obtained From 2 Routine Modalities, Mammography and Magnetic Resonance Imaging.	Eplasty. 2017 Dec 20;17:e39.	Original Article
130	Morita D, Numajiri T, Tsujiko S,	形成外科	Secondary Maxillary and Orbital Floor Reconstruction With a Free Scapular Flap Using Cutting and Fixation Guides Created by Computer-Aided Design/Computer-Aided Manufacturing.	J Craniofac Surg 28:2060-2062, 2017Nov.	Case report
131	Morita D, Numajiri T, Nakamura H,	形成外科	Intraoperative Change in Defect Size during Maxillary Reconstruction Using Surgical Guides Created by CAD/CAM.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2017 Apr 20;5(4):e1309.	Case report
132	Takahashi Y, Nishio A, Yamamoto D et al.	脳神経外科	Usefulness of 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in comparison with methionine-positron emission tomography in differentiating solid hemangioblastoma from adult cerebellar tumors.	World Neurosurgery. 2018 Feb; 110: e648-e652	Original Article
133	Nakagawa Shuji	整形外科	Arthroscopic Pullout Fixation for a Small and Comminuted Avulsion Fracture of the Posterior Cruciate Ligament from the Tibia	Knee Surgery Related Research. 2017 Dec 1;29(4):316-320.	Case report

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
134	Mori Yuki	整形外科	Antitumor effects of pristimerin on human osteosarcoma cells in vitro and in vivo	Oncology Targets Therapy. 2017 Nov 28;10:5703-5710.	Original Article
135	Mori Yuki	整形外科	Suppression of heat shock protein 70 by siRNA enhances the antitumor effects of cisplatin in cultured human osteosarcoma cells.	Cell Stress and Chaperones. 2017 Sep;22(5):699-706.	Original Article
136	Yoshida Takashi	整形外科	Modyfied wedge osteotomy for osteoarthritis of elbow secondary to osteochondritis dissecans in adolecent with multiple epiphyseal dysplasia. A case report.	J Orthop. 2017 Aug 10;14(4):515-519.	Original Article
137	Arai Yuji	整形外科	Comparative analysis of medial patellofemoral ligament length change pattern in patients with patellar dislocation using open-MRI	Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy 2017 Aug;25(8):2330-2336.	Original Article
138	Hosoi Kunihiko	整形外科	Usefulness of anterior cervical fusion using titanium interbody cage for treatment of cervical degenerative disease with preoperative segmental kyphosis	Medicine (Baltimore). 2017 Aug;96(32):e7749	Original Article
139	Inoue Hiroaki	整形外科	Outcome of Low-Invasive Local Split-Thickness Lengthening for Iliotibial Band Friction Syndrome	International Journal of Sports Medicine. 2018 Feb;39(3):232-236.	Original Article
140	Onshi Okihiro	整形外科	BMC Musculoskelet Disord. 2018 Mar 13;19(1):81.	BMC Musculoskelet Disord. 2018 Mar 13;19(1):81.	Original Article
141	Waratani M, Mori T, Ito F, et al	産婦人科	Increased ipsilateral uterine artery vascular resistance in women with ovarian endometrioma	J Obstet Gynaecol Res 43(4):736-743, 2017Apr.	Original Article
142	Ito F, Tatsumi H, Takahata A, et al	産婦人科	Isolated fallopian tube torsion diagnosed and treated with laparoscopic surgery: a case report	Gynecology and Minimally Invasive Therapy 6(2):89-91, 2017Apr-Jun.	Original Article
143	Tanaka Y, Mori T, Ito F, et al	産婦人科	Exacerbation of endometriosis due to regulatory T cell dysfunction	J Clin Endocrinol Metab 102(9):3206-3217, 2017 Sep.	Original Article
144	Tarumi Y, Mori T, Matsushima H, et al	産婦人科	Long-term survival with bevacizumab in heavily pretreated and platinum-resistant mucinous ovarian cancer: A case report	J Obstet Gynaecol Res 44(2):347-351, 2018Feb.	Original Article
145	Takaoka O, Mori T, Ito F, et al	産婦人科	Daidzein-rich isoflavone aglycones inhibit cell growth and inflammation in endometriosis	J Steroid Biochem Mol Biol 181:125-132, 2018Jul.	Original Article
146	Khan KN, Fujishita A, Hiraki K, et al	産婦人科	Bacterial contamination hypothesis: a new concept in endometriosis	Reprod Med Biol 17(2):125-133, 2018Jan.	Review
147	Norihiko Yokoi, Georgi As. Georgiev, Hiroaki Kato, et al.	眼科	Three percent diquafosol ophthalmic solution as an additional therapy to existing artificial tears with steroids for dry-eye patients with Sjögren's syndrome.	Am J Ophthalmol 180(8): 72-85, 2017Aug.	Original Article
148	Kenji Nagata, Yoshinobu Eishi, Keisuke Uchida, et al.	眼科	Immunohistochemical detection of Propionibacterium acnes in the retinal granulomas in patients with ocular sarcoidosis	Sci Rep 7: 15226, 2017Nov.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
149	Munetoyo Toda, Morio Ueno, Asako Hiraga, et al.	眼科	Production of homogeneous cultured human corneal endothelial cells indispensable for innovative cell therapy	Invest Ophthalmol Vis Sci 58(4): 2011-2020, 2017Apr.	Original Article
150	Mayumi Ueta, Hiromi Sawai, Ryosei Shingaki, et al.	眼科	Genome-wide association study using the ethnicity-specific Japonica array: identification of new susceptibility loci for cold medicine-related Stevens-Johnson syndrome with severe ocular complications	J Hum Genet 62(4): 485-489, 2017Apr.	Original Article
151	Kazuhito Yoneda, Keisuke Morikawa, Yusuke Oshima, et al.	眼科	Surgical outcomes of 27-gauge vitrectomy for a consecutive series of 163 eyes with various vitreous diseases	Retina 37(11): 2130-2137, 2017Nov.	Original Article
152	Osamu Hieda, Norihiko Yokoi, Chie Sotozono.	眼科	Ocular-muscle surgery for filamentary keratitis that developed in double elevator palsy	Int Med Case Rep J 10: 385-388, 2017Dec.	Case report
153	Mayumi Ueta, Hiromi Nishigaki, Chie Sotozono, et al.	眼科	Downregulation of interferon-γ-induced protein 10 in the tears of patients with Stevens-Johnson syndrome with severe ocular complications in the chronic stage	BMJ Open Ophthalmol 1(1): e000073, 2017Aug.	Original Article
154	Risa Tamagawa-Mineoka	皮膚科	Patch testing in patients with recurrent vesicular hand eczema.	Allergology International 66(4); 632-633, 2017 Oct.	Letter
155	Risa Yasuike	皮膚科	The role of toll-like receptor 3 in chronic contact hypersensitivity induced by repeated elicitation.	Journal of Dermatological Science 88(2); 184-191, 2017 Nov.	Original Article
156	Toshiya Takamura	泌尿器科	FGFR inhibitor BGJ398 and HDAC inhibitor OBP-801 synergistically inhibit cell growth and induce apoptosis in bladder cancer cells.	Oncology Reports. 2018 Feb;39(2):627-632	Original Article
157	Teruki Shimizu	泌尿器科	Low dose gemcitabine increases the cytotoxicity of human Vγ9Vδ2 T cells in bladder cancer cells in vitro and in an orthotopic xenograft model.	Oncoimmunology. 2018 Feb 8;7(5)	Original Article
158	Munehiro Ohashi	泌尿器科	Disruption of circadian clockwork in in vivo reprogramming-induced mouse kidney tumors.	Genes Cells. 2018 Feb;23(2):60-69	Original Article
159	Hidefumi Taniguchi	泌尿器科	CNPY2 promoted the proliferation of renal cell carcinoma cells and increased the expression of TP53.	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2017 Apr 1;485(2):267-271	Original Article
160	Toru Matsugasumi	泌尿器科	Morphometric analysis of prostate zonal anatomy using magnetic resonance imaging: impact on age-related changes in patients in Japan and the USA.	British Journal of Urology International . 2017 Oct;120(4):497-504	Original Article
161	Akihito Arai	耳鼻咽喉科	p62/SQSTM1 levels predicts radiotherapy resistance in hypopharyngeal carcinomas.	American Journal of Cancer Research.2017Apr;7(4):881-891.Online;2017年1月	Original Article
162	Teruyuki Matsuoka	精神科・心療内科	Reduced pineal volume in Alzheimer Disease: A retrospective cross-sectional MR imaging study.	Radiology. 2018 Jan; 286(1): 239-248.	Original Article
163	Hiroshi Fujimoto	精神科・心療内科	Brain regions associated with anosognosia for memory disturbance in Alzheimer's disease: a magnetic resonance imaging study.	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2017 Jul 5; 13: 1753-1759.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
164	Teruyuki Matsuoka	精神科・心療内科	Differences in the neural correlates of frontal lobe tests.	Psychogeriatrics. 2018 Jan; 18(1): 42-48.	Original Article
165	H Yamazaki,S Nakamura,G Suzuki,et ai.	放射線科	In Regard to Phan et al	INTERNATIONAL JOURNAL OF RADIATION ONCOLOGY BIOLOGY PHYSICS.2017 Mar;97:868	Original Article
166	H Yamazaki,S Nakamura,G Suzuki,et ai.	放射線科	Comment on "Effect of tumor dose, volume and overall treatment time on local control after radiochemotherapy including MRI guided brachytherapy of locally advanced cervical cancer" Kari Tanderup et al	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY.2017 Apr;123:169	Original Article
167	Gen Suzuki,Hideya Yamazaki,Norihiro Aibe,et ai.	放射線科	Clinical usefulness of the platelet-to lymphocyte ratio in patients with angiosarcoma of the face and scalp	International journal of molecular sciences.2017 Nov;18:2402	Original Article
168	H Yamazaki,Y Demizu,T Okimoto,et ai.	放射線科	Reirradiation for recurrent head and neck cancers using charged particle or photon radiotherapy	STRAHLENTHERAPIE UND ONKOLOGIE.2017 Jul;193:525-33	Original Article
169	Takuya Kimoto,Hideya Yamazaki,Gen Suzuki,et ai.	放射線科	Local field radiotherapy without elective nodal irradiation for postoperative loco-regional recurrence of esophageal cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY.2017 Sep;47:809-14	Original Article
170	H Yamazaki,G Suzuki,S Nakamura,et ai.	放射線科	Radiotherapy for laryngeal cancer-technical aspects and alternate fractionation	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH.2017 Jul;58:495-508	Original Article
171	Gen Suzuki,Hideya Yamazaki,Norihiro Aibe,et ai.	放射線科	Palliative radiotherapy in the local management of stage IVB esophageal cancer: Factors affecting swallowing and survival	ANTICANCER RESEARCH.2017 Jun;37:3085-92	Original Article
172	Daisuke Shimizu,Hideya Yamazaki,Takuya Nishimura,et ai.	放射線科	Long-term Tumor Control and Late Toxicity in Patients with Prostate Cancer Receiving Hypofractionated (2.2 Gy) Softtissue- matched Image-guided Intensity-modulated Radiotherapy	ANTICANCER RESEARCH.2017 Oct;37:5829-35	Original Article
173	H Yamazaki,N Aibe,S Nakamura,et ai.	放射線科	Measurement of exhaled nitric oxide and serum surfactant protein D levels for monitoring radiation pneumonitis following thoracic radiotherapy	Oncology Letters.2017 Oct;14:4190-6	Original Article
174	Sawa Teiji	麻酔科	Effective evaluation of arterial pulse waveform analysis by two-dimensional stroke volume variation-stroke volume index plots.	J Clin Monit Comput 31(5): 927-41, 2017Oct.	Original Article
175	Mukai Nobuhiro	麻酔科	Potential contribution of erythrocyte microRNA to secondary erythrocytosis and thrombocytopenia in congenital heart disease.	Pediatr Res. 2018 Jan 17. doi: 10.1038/pr.2017.327.	Original Article
176	Naito Yoshifumi	麻酔科	Anti-PcrV Immunization for Pseudomonas aeruginosa Pneumonia in Cystic Fibrosis, Progress in Understanding Cystic Fibrosis	Dr. Dinesh Sriramulu (Ed.), InTech, doi: 10.5772/intechopen.69767,2017 Jul	Original Article
177	Kinoshita Mao	麻酔科	Energetic performance analysis of staged palliative surgery in tricuspid atresia using vector flow mapping.	Cardiovasc Ultrasound. 15(1): 27, 2017 Dec 14.	Original Article
178	Yamakita Syunsuke	麻酔科	Dexmedetomidine prolongs levobupivacaine analgesia via inhibition of inflammation and p38 MAPK phosphorylation in rat dorsal root ganglion.	Neuroscience 361: 58-68, 2017Oct.	Original Article

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
179	Takuyo Kanayama	小児科	Pediatric T-ALL complicated by irreversible nelarabine neurotoxicity	Pediatr Int. 59(7): 843-5, 2017Jul.	Case report
180	Masashi Zuiki	小児科	Luteolin attenuates interleukin-6-mediated astrogliosis in human iPSC-derived neural aggregates: A candidate preventive substance for maternal immune activation-induced abnormalities.	Neurosci Lett. 653: 296-301, 2017Jul.	Original Article
181	Hidechika Morimoto	小児科	Angiotensin 1-7 stimulates brown adipose tissue and reduces diet-induced obesity.	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2018 Feb 1;314(2):E131-E138.	Original Article
182	Hiroshi Kubo	小児科	Evidence for choosing biologic disease-modifying anti-rheumatic drugs in the treatment of Behçet disease.	Semin Arthritis Rheum. 47(1): e1, 2017Aug.	Letter
183	Kenichi Sakamoto	小児科	Ph-like acute lymphoblastic leukemia with a novel PAX5-KIDINS220 fusion transcript.	Genes Chromosomes Cancer. 56(4): 278-84, 2017Apr.	Original Article
184	Michiko Yoshida	小児科	Identification of novel BCL11A variants in patients with epileptic encephalopathy: expanding the phenotypic spectrum.	Clin Genet. 2018 Feb;93(2):368-373	Case report
185	Chinatsu Suzuki	小児科	Non-receptor type, proline-rich protein tyrosine kinase 2 (Pyk2) is a possible therapeutic target for Kawasaki disease.	Clin Immunol. 179: 17-24, 2017Jun.	Original Article
186	Keinichi Sakamoto	小児科	Low Incidence of Osteonecrosis in Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia Treated With ALL-97 and ALL-02 Study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group.	J Clin Oncol. 2018 Mar 20;36(9):900-907	Original Article
187	Shinya Osone	小児科	Sorafenib Therapy for Pediatric Acute Myeloid Leukemia with FMS-like Tyrosine Kinase 3-internal Tandem Duplication Mutations: 2 Case Reports.	J Pediatr Hematol Oncol. 39(4): e199-e202, 2017 May.	Case report
188	Junko Wakao	小児外科	Efficient direct conversion of human fibroblasts into myogenic lineage induced by co-transduction with MYCL and MYOD1	Biochemical and Biophysical Research Communications, 488(2): 368-373, Jun 2017.	Original Article
189	Shigehisa Fumino	小児外科	Advanced surgical strategy for giant mediastinal germ cell tumor in children	Journal of Pediatric Surgery Case Reports, 27: 51-55, Dec 2017.	Case report
190	Taizo Furukawa	小児外科	Localized isolated hypoganglionosis in an infant	Journal of Pediatric Surgery Case Reports, 28: 48-50, Dec 2017.	Case report
191	Maho Inoue	小児外科	Laparoscopic intraperitoneal onlay mesh for pediatric incisional hernia - a case report	Surgical Case Reports, 3:(1) 122, Dec 2017.	Case report
192	Satoshi Asada	小児心臓血管外科	Chimney reconstruction of the aortic arch in the Norwood procedure	J Thorac Cardiovasc Surg 2017 Sep;154(3):e51-e54	Case report
193	Satoshi Asada	小児心臓血管外科	Systemic Venous Rerouting Through the Coronary Sinus for ccTGA With Bilateral SVCs	Ann Thorac Surg 2017Nov;104:e393-5	Case report

小計 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別	
194	Hashimoto Satoru	集中治療部	ARDS clinical practice guideline committee from the Japanese Society of Respiratory Care Medicine and the Japanese Society of Intensive Care Medicine. The clinical practice guideline for the management of ARDS in Japan.	J intensive Care, 5:50, 2017Jul.	Original Article	
195	Inaba T, Shimomoto B, Yuki Y, et al.	臨床検査部	New alert message settings for the XN-series automated hematology analyzer are useful for avoiding falsely high WBC counts and to detect specimens with giant platelets	Ann Clin Lab Sci 2017 Sep;.47: 581-5	Original Article	
196	Inaba T, Nagata K, Maruyama K	臨床検査部	Huge multinuclear cells in vitreous sample obtained from the patient with vitreous opacity	J Clin Ophthalmol Eye Dis. 2018 Jan (オンライン)	Case report	
197	Konishi Eiichi	病院病理部	Chondroblastoma of extra-craniofacial bones: Clinicopathological analyses of 103 cases	Pathology International. 67 (10) 495-502, 2017 Oct.	Original Article	
198	藤本早和子	看護部	Effects and safety of mechanical bathing as a complementary therapy for terminal stage cancer patients from the physiological and psychological perspective: a pilot study	Jpn J Clin Oncol. 2017 Nov 1;47(11):1066-1072	Letter	
199	神林祐子	薬剤部	Predictors of the usefulness of duloxetine for chemotherapy-induced peripheral neuropathy	Med Oncol. 2017 Aug;34(8):137	Original Article	
200	神林祐子	薬剤部	Predictive factors in patients eligible for pegfilgrastim prophylaxis focusing on RDI using ordered logistic regression analysis	Med Oncol. 2018 Mar 16;35(4):55	Case report	
201	神林祐子	薬剤部	Predictors of the Usefulness of Corticosteroids for Cancer-Related Fatigue in End-of-Life Patients	Clin Drug Investig. 2017 Apr;37(4):387-392	Review	小計 8

計 201件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とすること。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	谷口彩乃	疼痛・緩和医療学講座	Selective Percutaneous Controlled Radiofrequency Thermocoagulation of the Gasserian Ganglion To Control Facial Pain Due to Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw	J Palliat Med. 2017 Oct;20(10):1171-1174	Original Article

計 1件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・　手順書の主な内容 学長の業務、研究者等の責務等、研究責任者の業務、他機関への既存資料・情報等の提供、審査委員会の事務・審査記録の保存、講習の受講、データーベースの登録	
③　倫理審査委員会の開催状況	年　10　回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・　規定の主な内容 「京都府公立大学法人の利益相反の管理に関する規程」…利益相反の管理や判断基準等を規定 「京都府立医科大学利益相反委員会規程」…設置目的や組織編成等について規定 「京都府立医科大学臨床研究に係る利益相反の管理に関する取扱規程」…臨床研究における利益相反の管理について規定	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年　12　回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年　13　回 録画上映会を含む
・研修の主な内容 「研究倫理に関する基礎知識」 「研究公正を考える　～医学研究に関連して～」 「臨床研究と日常診療をどう区別するか」 「科学技術倫理2.0　～単なる研究不正防止を越えて～」	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

各診療科において、専門医・認定医取得のための高度な医療知識・スキルを習得させる。 （プログラムは各科ごとに作成）

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	２１８人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
山口　寛二	消化器内科	助教（学内講師）	２１年	
中村　　猛	循環器内科	助教（学内講師）	２３年	
塩津　弥生	腎臓内科	助教（学内講師）	１４年	
金子　美子	呼吸器内科	助教	１８年	
山﨑　真裕	内分泌・糖尿病・代謝内科	講師	２２年	
志村　勇司	血液内科	助教（学内講師）	１２年	
和田　　誠	膠原病・リウマチ・アレルギー科	助教	２０年	
齋藤　光象	脳神経内科	助教	１２年	
中西　正芳	消化器外科	准教授	２５年	
沼田　　智	心臓血管外科	助教（学内講師）	２３年	
前田　吉宣	小児心臓血管外科	助教	１８年	
下村　雅律	呼吸器外科	助教（学内講師）	１６年	
大内　佳美	内分泌・乳腺外科	助教	１１年	
昇　修治	移植・一般外科	講師	２０年	
古川　泰三	小児外科	講師	２３年	
素輪　善弘	形成外科	講師	１５年	
立澤　和典	脳神経外科	講師	２４年	
白井　寿治	整形外科	准教授	２２年	
楠木　　泉	産婦人科	病院准教授	２７年	
今村　俊彦	小児科	講師	２４年	
米田　一仁	眼科	助教	１８年	
浅井　　純	皮膚科	講師	１７年	
鈴木　啓	泌尿器科	助教	１９年	
新井　啓仁	耳鼻咽喉科	助教（学内講師）	１５年	
阿部　能成	精神科・心療内科	助教	８年	
高畑　暁子	放射線科	助教	１７年	
石井　祥代	麻酔科	助教	１４年	
深澤　圭太	疼痛・緩和ケア科	助教（学内講師）	２３年	
沢田　光思郎	リハビリテーション科	講師	１５年	
山本　俊郎	歯科	講師	２２年	
太田　　凡	救急医療科	教授	３０年	
小西　英一	病理診断科	病院教授	３２年	
中西　雅樹	感染症科	講師	２３年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
○ 輸血療法研修会：「安全な輸血療法のために」 45 分×2 回実施、参加人数 150 名 ○ 看護師輸血勉強会：「安全な輸血療法の実際」 90 分×1 回実施、参加人数 15 名 ○ 臨床検査部勉強会：「部内勉強会」 60 分×8 回実施、のべ参加人数 211 名 ○ ＮＳＴ研修会「滋賀医科大学でのＮＳＴの実際」ほか 90分×1回、参加人数 104名 ○ ＮＳＴ勉強会　基礎編「低栄養のスクリーニングと栄養剤の使い方」 60分×1回、参加人数 52名
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
○ 臨床検査部、輸血細胞医療部　国際認定IS015189必須研修 4回、のべ参加人数147名
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
○ 認定輸血検査技師病院研修 1回　受講者数2名 ○ 心臓リハビリテーションに関する研修 10回/年、研修の参加人数：10人

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　②　現状
管理責任者氏名	病院長　　北脇　城
管理担当者氏名	事務部長　藤井　和男

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	診療情報管理室 病棟 調剤室 フィルム庫 病院管理課	・平成２０年１月から電子カルテシステムを導入し、電子データでの管理を行っている。 ・紙カルテ（手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の経過記録の要約等）は、診療情報管理室に保管。 ・処方箋は調剤室に、エックス線フィルムはフィルム庫保管。 ※診療録を病院外に持ち出すことは「診療記録貸出・返却要領」で禁止している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	経営企画課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
		高度の医療の研修の実績	病院管理課	
		閲覧実績	病院管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部 医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床倫理委員会	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床倫理委員会	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務室	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部総務室	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部総務室	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	１．計画　（２）現状	
閲覧責任者氏名	病院管理課長　田川　裕隆	
閲覧担当者氏名	病院管理課副課長　藤田　育	
閲覧の求めに応じる場所	病院管理課　総務調整担当	
閲覧の手続の概要 閲覧請求者の住所、氏名、請求記録名、閲覧理由を聴取した上で、請求のあった記録を所管する部署から該当資料を取り寄せ、病院管理課内で閲覧に供する。		

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	０件
閲覧者別	医師	延　０件
	歯科医師	延　０件
	国	延　０件
	地方公共団体	延　０件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ・安全管理のための基本的な考え方 ・安全管理のための組織 ・医療事故発生時の対応 ・医療事故及びインシデント報告制度 ・職員の教育・研修及び啓発 ・患者相談窓口	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ (有)・無 ） ・ 開催状況：年 １２ 回 ・ 活動の主な内容： ・ 安全管理のための指針の策定及び変更 ・ 院内で発生した医療事故、インシデントの調査分析、再発防止策の立案・実施 ・ 安全管理のための教育・研修及び啓発の検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 44 回
・ 研修の内容（すべて）： ・医療事故調査制度とインシデント・アクシデント報告と対策 ・後発医薬品と医療安全 ・院内蘇生体制について ・医療者（あるいは医療）と法律に関する最近の話題 ・高齢者の特性と関わり方 ・せん妄の正しい対応 ・患者誤認防止対策	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・オカレンス報告の実施 ・職員間での情報共有と注意喚起のためのインシデント事例等を掲載した「医療安全管理部ファイル」の作成　供覧 ・医療安全レターによる情報提供と注意喚起 ・急変対応ワーキングチームによるシステムの見直し、院内蘇生講習 ・医療安全のための院内ラウンドの実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 ・ 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者への情報提供と説明に関する基本方針 ・ 病院における院内感染対策の推進における基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年　１２　回
・ 活動の主な内容： ・感染症発生状況（対応状況も含む） ・MRSA等耐性菌の発生状況報告（対応状況も含む） ・抗MRSA薬等の使用状況報告（適正使用に関する指導状況も含む） ・その他院内感染対策の推進に関する方策の検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　３２　回
・ 研修の内容（すべて）：（ＤＶＤ研修も含めて） 感染症／敗血症 海外旅行と感染症 備えあれば憂いなし／結核予防 抗インフルエンザ薬　薬剤師さんに聞いてみよう 耐性菌／臨床検査技師さんに教わる 小児医療センター内での標準予防策 歯科外来での標準予防策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 各所属に「感染対策推進員」を配置し、年４回の合同会議の開催を計画し、院内感染対策の推進を図っている。 　さらに看護部門には推進員とは別に「リンクナース」を配置し、月１回の定期的な会を開催し院内感染対策の推進を図っている。また、感染症情報やその対応について、院内主要会議でのアナウンスを行い、電子カルテシステムの掲示板の活用等の手段により随時周知徹底を図っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	（有）・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年４回

・　研修の主な内容：

＜全職員対象＞

○医薬品安全管理セミナー「後発薬と医療安全」
開催日：2017/5/26：235名，6/20（DVD）：101名、DVD貸出：166名、計502名

＜部門別＞

○新人看護職員対象「医薬品の取扱い」
開催日：2017/4/6/7：82名

○手術室医師対象「麻薬・筋弛緩薬の取扱い」
開催日：2017/4/3、4/6、5/8、6/5、7/3、7/31、9/4、10/2、11/6、12/4、
2018/2/5、3/4　計43名

○看護師長対象「輸液ラインの選択」
開催日：2017/12/13、計29名

＜その他＞

○病棟薬剤師による各病棟での学習会　計9回、計90名

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　　（有）・無　）

・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

１）業務手順書に基づく年2回の業務チェックと手順書の見直し
・係長以上で年2回、業務手順書の再点検をし、医療に関する安全管理対策会議に諮ったうえで手順書を改定

２）医薬品安全管理に関する院内ラウンド
・係長以上で年1回、全部署を訪問。手順書に基づく業務の遂行、特に医薬品や鍵、注射シリンジ等の管理状況、救急カート薬や備品の安全な使用、口頭指示の適切な運用、薬剤部から発信している情報の共有状況、輸液ソフトバックを取り扱う際のピンホールの有無のチェック、PTPシートの誤飲対策等を確認

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（有）・無　）

・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
ハブリックス（A型肝炎ワクチン）、タイフィム（腸チフスワクチン）、
ベロラボ（狂犬病ワクチン）、リオリックス（麻疹・風疹・ムンプスワクチン）
ブーストリックス（破傷風・百日咳・ジフテリアワクチン）を渡航ワクチン外来で使用。

海外渡航用ワクチンとして、海外製ワクチン（A型肝炎ワクチン、腸チフスワクチン、狂犬病ワクチン、破傷風･ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日咳ワクチン、麻疹・風疹・ムンプスワクチン）
ＭＥＬＡＳに適応外使用アルギU配合顆粒、アルギU点滴静注製剤
セレン欠乏症に院内製剤セレン注射液、セレン内服液

・　**その他の改善のための方策の主な内容**：

１）未承認薬、適応外処方等の情報収集等
①医学倫理審査委員会、臨床倫理委員会でのかかわり
・未承認薬及び適応外処方の審査及び安全な投与に向けた介入
②薬剤部内・病棟内でのかかわり
・未承認薬の持込　　→　入退院センター業務、病棟薬剤業務、DI業務の中で把握
・病棟での適応外使用　→　病棟薬剤業務の中で把握

２）院内での医薬関連事故等の把握と対策
①医療に関する安全管理対策委員会、医療安全サポート会議での検討（各月1回）
②医薬品安全管理委員会での検討（月2回）
・アクシデント事例、ヒヤリハット事例の共有と対策の立案
・未承認薬の処方状況の把握と共有

３）薬剤部での通常の取組（主なもの）
①DIﾆｭｰｽの発行（月1回）
②緊急安全性情報・安全性速報、厚労省医薬品・医療機器等安全性情報の他、重要な通知に関する電子ｶﾙﾃへの掲示、院内配布
③重要な情報は患者を特定し処方医に文書で通知し、確認印の押されたものを薬剤部で回収
④粉砕・一包化の可否情報、麻薬Q&A等薬剤部で加工した文書の電子ｶﾙﾃへの掲示
⑤向精神薬の重複処方・過剰処方のﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞと注意喚起
⑥注射薬ﾗﾍﾞﾙへのﾙｰﾄ・ﾌｨﾙﾀｰ選択上の注意記載
⑦院外処方せんへの検査値記載及びﾄﾚｰｼﾝｸﾞﾚﾎﾟｰﾄｼｽﾃﾑの導入

４）薬剤部での新たな取組
①病棟での薬剤師による注射薬調製時のﾏﾆｭｱﾙの策定（2017/4）
②血液内科病棟でのｽﾊﾟｲｸｾｯﾄ導入（2017/6～）
③ｴﾋﾟﾍﾟﾝ®注射液のﾛｯﾄ管理の導入（2017/6～）
④小児科外来の成長ﾎﾙﾓﾝ注射液の自己注射に関する薬剤師による患者指導（2017/6～）
⑤ﾛｾﾌｨﾝ®注とCa含有注射液・輸液との併用に関する注意ｱﾗｰﾄの表示（2017/7～）
⑥入院調剤室でのﾊﾞｰｺｰﾄﾞを活用した医薬品の計数調剤導入（2017/8～）
⑦ﾌﾟﾛｽﾀﾝﾃﾞｨﾝ注（500）処方時の注意ｱﾗｰﾄの表示（20の誤処方防止）（2017/8～）
⑧医薬品検索方法の見直し（2017/8～）
⑨ﾊｻﾞｰﾀﾞｽﾄﾞﾗｯｸﾞ取扱いﾏﾆｭｱﾙ（案）の策定（2017/9）
⑩救急患者の予約外休日TDM（2017/11～）
⑪ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ中毒診断のための血中濃度測定（2017/12～）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年30回

・　研修の主な内容：

人工呼吸器の取扱い、補助循環(ECMO)研修会、閉鎖式保育器研修会、ペースメーカー研修(基礎)
新規導入機器研修会、除細動器実習研修会、血液浄化(透析)、放射線治療リニアック研修会
新規医療機器研修会(輸液ポンプ、パルスオキシメーター)、人工心肺研修会、他

③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

・　医療機器に係る計画の策定　　（(有)・無　）

・　機器ごとの保守点検の主な内容：

MEセンターによる年2回の定期点検(4500台)、特定保守管理機器のメーカー点検(9品目74台)実施済

④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医療機器に係る情報の収集の整備　　（(有)・無　）

・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：

高難度新規医療技術導入審査委員会の審査及び臨床倫理委員会の承認を受けて脳神経外科が実施する覚醒下手術において「オジャマン型双極刺激電極」を使用、また、「マルチビューワモニタリング」を独自に作成している。

・　その他の改善のための方策の主な内容：

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無

・責任者の資格 (医師)・歯科医師）

・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全担当の副病院長、医療安全管理部部長、医療にかかる安全対策委員会の委員長として病院全体の安全に関わる事柄を統括し指示・指導を行っている。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（３名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

医薬品情報室において、院内の医薬品の使用状況を月１回確認している。その結果を踏まえて、添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時の安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告する。特に、安全使用が懸念される医薬品（ラモトリギン等）については、医薬品毎に担当者を決め、安全体制を強化している。

緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品の回収情報など周知徹底の必要な情報は、既に電子媒体や紙媒体など複数の方法によって確実かつ速やかに提供している。

特に重要な情報については、処方患者を特定し処方医に注意文書を配布するとともに、処方医に閲覧印を取った後、回収することによって、周知を徹底している。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

申請書、同意書の確認。
臨床使用が妥当かの情報収集と事前審査。
使用後のモニタリング。

・担当者の指名の有無（(有)・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部　，職種　薬剤師　　）　（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無　）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月３診療科について診療録を確認し、定められた事項の遵守状況の点検を行い、必要時、指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

「退院時要約」、「手術記録」、「入院診療計画書」、「継続看護記録」について作成の有無を確認するなど診療記録の量的点検に取り組んでいる。また、「診療記録記載指針」を策定し、記載すべき項目や留意点を示して職員研修を実施するとともに、医師、看護師、コメディカルからなるWGにより診療記録の点検及び意見交換を行い、その結果を各所属にフィードバックすることで、診療記録の質的向上にも取り組んでいる。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無

・所属職員：専従（３）名、専任（２）名、兼任（６）名

うち医師：専従（０）名、専任（２）名、兼任（１）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名

うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（１）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

＊平成 30 年 4 月より専任の医師 2 名の配置を行っている。

・活動の主な内容：

- 医療事故、インシデント、オカレンスに係る報告のとりまとめ
- 医療事故、インシデントの発生原因の調査、分析
- 安全対策の実施状況、医療事故発生時の対応状況に関する調査、確認、指導
- 安全管理のための教育、研修の実施
- 安全対策の推進
- 院内死亡事例の確認と病院長への報告
- インフォームド・コンセント実施要綱に従った説明同意書の作成推進と要綱の遵守状況の点検

＊　集中治療部門、手術部門で一定の基準以上の事象が発生した事例の把握（オカレンス報告）、入院患者の転倒・転落発生率・心肺蘇生実施の把握などのモニタリングの実施

＊　研修時にアンケートを行い医療安全に関する認識の把握

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2 件）、及び許可件数（1 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ (有)・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ (有)・無 ）

・活動の主な内容：高難度新規医療技術による医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。

2017 年度　高難度新規医療技術導入審査委員会 2 回開催

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ (有)・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ (有)・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（10 件）、及び許可件数（13 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ (有)・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ (有)・無 ）

・活動の主な内容：

未承認薬等を使用する医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。

2017 年度　臨床倫理承認委員会 6 回開催

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ (有)・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ (有)・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 359 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年アクシデント報告　61 件、オカレンス報告 125 件　計 186 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡診断書と「医療事故該当性の主治医チェック表」の提出（報告）後、医療安全管理部副部長（医師）と安全管理推進者が診療録を確認した後、医療安全管理部部内会議で医療事故該当性について検討を行う。その情報を元に医療に関する安全対策委員会（医療安全管理委員会）で検討し、医療事故該当性について最終的な判断を行う。早急な対応が必要な場合緊急の対策委員会を開催する。

手術室、ICU、PICU で一定の基準を定めオカレンス報告を実施。アクシデント報告・オカレンス事例について医療に関する安全対策委員会で報告・検討を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ (有) （病院名：和歌山県立医科大学附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ (有) （病院名：国立循環器病研究センター）・無）

・技術的助言の実施状況

平成 29 年 10 月 16 日に国立循環器病センターから 6 名の調査員の訪問を受け入れ、書類審査、ヒアリング及び現場調査が行われた。主な確認内容は、①死亡症例のチェック②医療安全研修、③インシデントレポート、④オカレンス報告、⑤インフォ ームド・コンセント、⑥医療事故ヒアリング、⑦内部通報制度であった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談等に関する要綱」に基づき、平成 15 年 4 月 1 日から「患者相談窓口」（医療サービス課所管）を設置し、事務職員、ＰＳＷ・ＭＳＷが、平日の 8 時 45 分から 17 時まで対応している。

その際に、患者、家族等からの相談、要望、意見等を専門の相談員又は安全管理推進者がお聞きして支援することとしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象とした医療安全研修会として、医療事故調査制度やインシデント・アクシデントの具体的事例の改善策、安全な医療を行うために必要な知識、医療と法律に関する内容について研修を実施した。また、新採用者、研修医に対しては、インシデント・アクシデント報告の流れ、具体的事例の改善策についての研修を実施した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者：日本医療機能評価機構　平成 29 年度特定機能病院管理者研修受講

医薬品安全管理責任者：日本病院薬剤師会主催「医薬品安全管理責任者等講習会」（2017/10/1 開催）、日本医療機能評価機構主催「特定機能病院管理者養成研修」（2018/1/9, 1/10 開催）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること

規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 (1) 学内外を問わず、日本国の医師免許を有する者 (2) 附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者 (3) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 (4) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法：法人のホームページで公表

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ 無

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
・ 公表の方法･･･法人のホームページで公表予定（現在、委員を選考中）

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無

・合議体の主要な審議内容

(1)　京都府立医科大学附属病院の運営方針に関すること。
(2)　附属病院の中期計画・年度計画に関すること。
(3)　附属病院の予算・決算に関すること。
(4)　その他附属病院の運営に関する重要な事項に関すること。

・審議の概要の従業者への周知状況

会議での審議の概要については、臨床部長会等で周知を行う。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・(無)　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（ (有)・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
北脇　　城	○	医師	病院長
佐和　貞治		医師	副病院長、医療安全管理部長
田尻　達郎		医師	副病院長
加藤　則人		医師	副病院長
藤本 早和子		看護師	副病院長、看護部長
四方　敬介		薬剤師	薬剤部長
轟　　英彦		放射線技師	医療技術部長
藤井　和男		事務	事務部長
田川　裕隆		事務	病院管理課長
菱木　智一		事務	経営企画課長
桂　　一彦		事務	医療サービス課長
塩見　豊寿		事務	総務課長
絹谷　義彦		事務	経理課長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- **管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）**

  京都府立医科大学附属病院規程（平成３０年４月１日　京都府立医科大学規程第３６９号）の制定

- **公表の方法**

  学内ＨＰに掲載（他の大学規程と同様の取扱い）

- **規程の主な内容**

  附属病院の運営上必要な組織、職、業務内容、その他附属病院の管理・運営等に必要な事項を定めるもの

- **管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割**

  管理者をサポートする体制として、以下の会議を規程により設置

  ・病院管理運営会議（病院の運営方針等を決定する合議体。病院長、副病院長等で構成）

  ・病院経営改善推進会議
  （病院の経営改善の方針、運営を審議。学長、副学長、病院長、副病院長等で構成）

  ・病院経営改善企画会議
  （病院の運営方針の企画、管理運営を審議。病院長、副病院長等で構成）

  ・臨床部長会（病院の運営、診療を審議。診療部長等で構成）

  他に、個別の課題に対応するため、医療材料検討委員会や病床運用検討委員会など、病院長、担当副病院長が出席する委員会を設置している。

- **病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況**

  ・病院長の指名により副病院長、薬剤部長、医療技術部長等の管理職員を配置している。
  また、中央部門の長等及び各種委員会の委員についても病院長が指名している。

  ・病院長、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者について、日本医療機能評価機構による「特定機能病院管理者研修」を受講

  ・外部講師による「病院経営改善セミナー」に病院長及び管理職員が参加

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無

・監査委員会の開催状況：年２回

・活動の主な内容：

・病院の医療安全管理部、医療に関する安全対策委員会、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者等の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。

・必要に応じ、医療に係る安全管理について是正措置を講ずるよう意見を表明する。

・監査の結果について速やかに公表する。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ (有)・無 ）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）

・公表の方法：京都府公立大学法人ホームページに掲載

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
松村　由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	有・(無)	1
平野　哲郎	立命館大学法科大学院法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	有・(無)	1
佐藤　恵子	京都大学医学部附属病院		生命倫理学の観点から医療問題に精通している。	有・(無)	1
秋篠　憲一	同志社大学文学部英文学科		本院の患者として医療を受ける者の代表	有・(無)	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 京都府公立大学法人コンプライアンス推進規程 京都府公立大学法人コンプライアンス委員会設置要綱 公立大学法人総務・経営担当理事を委員長とし、法人所管の２大学の学長、法人の教職員の身分を有していない理事のほか、コンプライアンスに関する有識者で構成するコンプライアンス委員会において、コンプライアンスの推進に係る制度の実施状況の把握、点検、評価等を行うとともに、通報事案の解決策の明示、再発防止策の策定を行う。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 コンプライアンス推進規程及び内部通報制度に関する要綱を京都府公立大学法人ホームページに掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

京都府公立大学法人理事会
病院長は理事として出席
病院の業務実績等について定期的に報告

・ 会議体の実施状況（　年１１回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ・ 無　）（　年１１回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無　）

・ 公表の方法
京都府公立大学法人ホームページに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
・通報件数（年０件）
・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ・ 無 ）
・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ・ 無 ）
・周知の方法 京都府公立大学法人及び京都府立医科大学附属病院ホームページに掲載 京都府立医科大学コンプライアンス指針に掲載（教職員研修等で周知）

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	(有)・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 （公財）日本医療機能評価機構、平成28年2月（認定機関：平成28年3月20日～平成33年3月19日）	

（注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページに本院の特定機能病院としての医療提供に係る特色、病院の理念･基本方針、各種指定の状況等について掲載し、情報発信を行っている。 また、患者向け広報誌を発行（年３回）し、院内での取組等について、定期的に情報発信を行っている。	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 外来では、消化器センター、循環器センター、呼吸器センターなど７つのセンターで、複数診療科が連携して診療対応に当たっている。	